

1972.3

修学旅行

# 行動 の 三日記

旅行委員会

1972.3

## 修学旅行

# 行動の記録



旅行委員会

春の嵐の奈良、霧雨に煙る京都、  
そんな静かな古都を、私たちは3月  
20日から23日にかけて旅行した。そ  
のあいだには、永遠の美しさを称え  
た庭園に驚いたり、見知らぬ人びと  
と触れあいに、ふとした旅の風情を  
感じたりもした。そのような修学旅  
行での、しみじみとした印象をとど  
めるために、この「行動の記録」を  
編集した。

この記録は、各班の班長に書いて  
もらったものであるが、提出が半数  
しかなく、残念ながら全体をのせる  
にいたらなかった。しかし、これだ  
けでも、終日の雰囲気や、あるとき  
のエピソードなど、旅の実感は仄仄  
と再現されて、皆に伝えられるので  
はないだろうか。

昭和47年7月20日

旅行委員長 小林 隆治

### 第3班

高橋京子(A) 立木薰(B) 野村良子(C) 吉田真起(E)

#### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:05—14:00三月堂—15:00万葉植物園—ささやきの小道—15:45  
新薬師寺—16:30白毫寺—17:15大文字旅館

##### (感想)

今日は、風雨とも強かった。傘をさしていられない様な時もある。三月堂の月光菩薩像が見たかったのである。非常に暗い堂内では菩薩の顔も定かではない。写真の様には、はつきり見えず、静かな堂内では懐中電燈をつけるのは蟬れる。しかしフックラと合わせた手、慈悲深い表情はさすがに期待を裏切らなかった。

ささやきの小道は、わずかに10分位で通り抜けられてしまう。しかし、あしひの花が咲き、小川が傍を流れ、この時は雨あがりのため木の香が素晴らしい、決して東京では味わえないものを市内で味わえるのは大事なことかもしれない。

急な階段を懸命に登ってたどりついた白毫寺には、別に見るものもなく、拝観時刻もとうに過ぎて深閑としていた。寺の子供が椿の花を輪に造っていたのが印象的だった。

#### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:05—京阪三条8:24—9:11高雄—9:30高山寺—11:00神護寺—  
13:40大覚寺—15:30西芳寺—17:15御殿荘

##### (感想)

写真撮影が終わってすぐ駆け出して、8:24のバスに乗れた。終点に近づくにつれて車内の空気までヒンヤリしてきた。清滝川の流れを横に見て、高山寺境内に入ると、杉の木立の中の空気はさわやかで、別世界の様である。金堂に先に参ったばかりに、石水亭が見つかなくなってしまった、山道を大分登ると、うぐいすの声が聞こえてくる。珍らしい、かわいらしい花を見つけた。遠回りではあったが、京都の郊外を満喫した。石水亭の石垣に見知らぬコケが植わっていた。我グループのNさんが、「マルゴケ」と命名した。

神護寺は「階段寺」。「かわらけ投げ」で厄払い。苦労して登った靈場は親しみがわく。

高雄山越から福王寺、ここで乗りかえて、山越へ。地図を見まちがえてしまったが、太秦開日町のすぐそばに出た。バスで大覚寺へ。ここで昼食。大沢池を見ながら食べた。かわいい、たぶん雛鳥だと思うが、水鳥が泳いでいると思うと、頭からもぐってしまう。Tさんの命名で「もぐり鳥」。入口の松に圧倒された。嵐山から西芳寺へ。先日、万葉植物園で見たあしひが咲いていた。話しながら歩いていたら、広いと思った園内もあつと言ふ間である。嵯峨野辺で時間がとれずに残念である。

#### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:10—えい電前8:56—八瀬遊園—大原—寂光院—三千院—京都駅  
八条口

(感想)

雨の大原である。しっとりとして良い時に行ったと思っている。50分位バスに乗ると、市内を離れた感が強い。建礼門院の頃とは比べものにならないくらいにぎやかになった大原ではあろうが、私にはやはりひなびて見える。

寂光院へ行った。おそらく当時は訪れる人もなかつたであろう。庭に花が咲くのを待ちつつ冬を過ごしたであろうが、といろいろなことが思い浮かぶ。

三千院へ行く途中、店にはいって昼食をとる。雨が降っているので、屋外では到底食べられない。ただ、お弁当を食べるのでは申し分けないので、「とろろそば」をとった。この時は、大きくて重いお弁当がうらめしかつた。こたつで暖をとつて1時間位そこに居た。三千院に行く道が気にいった。川の中にゴミがあるのは耐えられなかつたが、虹の間で説明を聞いていてしごれてしまった。虹といつても秋でなければ意味がなく、色あせた絵絵があるだけである。大体今頃はいう、すさまじき季節である。花もなければ、川下りの雰囲気もなければ、もちろんもみじもない。雪さえもない。あるのは時折り降つてくる雨だけ。説明だけで時刻がきつてしまつた。庭も見ずに早々に引きあげてきた。京都駅に1時間以上もいたのに……。

第6班

樋本英一(A) 杉浦純(A) 三浦敏洋(A)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—13:05猿沢の池—13:10興福寺—13:30奈良国立博物館—13:35奈良県庁—13:40春日大社—14:15二月堂—14:20—三月堂—14:30東大寺—14:35大仏殿—14:40正倉院—15:00大文字旅館

(感想)

雨がすべてをぶちこわしてしまつたのでした。我が班は、若草山を中心とする丘陵地帯を歩きまわるつもりでしたが、それはそれは無理な話でした。しかし二月堂の付近の山はなかなかローカル色豊かで（生活がにじみ出でていて）我が班の樋本写真部員は夢中で写真を撮りまくつていたのです。その他のいわゆる、著名な場所は、強引に素通りして、なんとこの日はお金を使わぬで済んだのでした。“新幹線は思ったよりつまらなかつた”

(他班の弁)

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:00—8:50京都駅9:03—9:19花園—9:40法隆寺—10:25嵐山—10:30岩田山自然遊園地—11:10鹿王院—12:00苔寺—13:10竜安寺—13:40金閣寺—14:20大徳寺—16:00御殿荘

(感想)

この日は、言わば、この旅行のハイライトとなつたのです。なんといつても2日分の予

定を1日で回ろうと決心したのですから大変なことでしたが、それでも、京都市に奉仕すべく、市電、市バスをめつたやたらに乗り回したのでした。最大のひろいものは鹿王院でした。ここは、実は行く予定などまるでなかつたのですが、通りがかりで、たまたま入つて、そのすばらしさに驚嘆したのでした。80円で、人はいないし、苔はあるし、お堂に入って、木魚をたたきながらお経は読めるし、うぐいすは鳴くし、梅は咲いているし、静かだし、実にすばらしいのでした。確信をもつてスイセンいたします。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—京都駅8:38—9:40草津10:10—10:50石山寺—12:30岩間寺—12:55石山寺—13:35石山13:35—13:50京都駅—14:00京都観光デパート—14:20京都タワー—15:30八条口

(感想)

実は3日目（22日）で当初の予定をすべて回つてしまつたので、この日はあってもなくてもよかったです。そういうわけにもいかないので、京都駅に行って、必死になってこのスケジュールをひねりだしたのであります。つまりはおまけのようなもので、そう面白くなかったといつても別にどうということはなかつたのでありました。雨がまたもや降りましたので、実に不快でもあったわけです。だれかが草津にはいい湯があるので言つてはいましたが、当然そんなものはなかつたのです。

第7班

石戸秀明(A) 梅沢秀明(A) 鈴木健二(A) 兵藤弘継(A)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:30—国鉄奈良駅—法隆寺—中宮寺—法隆寺—近鉄奈良駅—17:30大文字旅館

(感想)

国鉄奈良駅までの距離が長く気をつけるべし！列車の時間をあらかじめ調べておかないと、待ち時間が長くなるので気をつけるべし！（なぜならば、室生寺へ行くはずだったのが、時間の関係上断念せざるを得なかつた。）

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:30—京阪三条—高雄—神護寺—高山寺—四条大宮—祇園—熊野神社前—御殿荘—哲学の小道—17:30御殿荘

(感想)

神護寺、高山寺は人が少なくて、ゆっくりできたので、旅行においてはゆっくりすることを基本にすべし！（なぜならば、京都の情緒を十分に味わうことができたから）バスの中で行きも帰りも寝てしまつたので、よく夜は睡眠をとるべし！祇園は、格子戸などが立

ち並び、この日初めて京都の慕情があったので、一度祇園に行くべし！ 哲学の小道を西田幾太郎が純粋経験を思索しながら歩いたので、我々も哲学の世界へ没入することをこころがけるべし！

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00——祇園——鳥丸三条——大原——寂光院——三千院——大原——京阪三条——七条——15:30京都駅

#### (感想)

市バス、市電が通勤時間と重なったため、非常に混雑したので、時間帯を慎重にすべし！ この日は朝から雨だったが、大原は雨の方がしっとり濡れて良いので、大原は雨の降る時に行くべし！（なぜならば、三千院では、番傘を貸してくれたから）弁当をバスの中で食べたが、非常の際はそういった臨機応変なこころがけを持つべし！

### 第11班

松樹道真(A) 中村真理(G) 山崎竜弥(G) 湯山康樹(G)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00——奈良駅13:30——14:00淨瑠璃寺——15:00興福寺境内、奈良公園  
16:00——16:30大文字旅館

#### (感想)

バス道路は細く、曲りくねっていて、くぼみやら何やらでだいぶ揺られました。また、降りてからの道も、折りからの雨でぐじゃぐじゃ。以上、いかにも奈良らしいという印象を受けました。

もう少し時間をもらって、奈良の各地が見られればよかった。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:00——京阪三条——広隆寺——嵐山——苔寺——天竜寺——12:00落柿舎——  
二尊院——清涼寺——嵐山——平安神宮——16:30御殿荘

#### (感想)

京阪三条に出るまでに手間がかかった、複雑、めんどう。広隆寺の弥勒は150円も払って見た価値があったかどうか…。二尊院は予定外だったが、大蛇退治の骨や、法然のあしひきの絵などおもしろかった。平安神宮の出店で友人がたこやきを買ったのだが、値段が明示されておらず、聞けば200円とは高すぎる。学生だからってふっかけたな。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00——下鴨神社9:00——建仁寺——豊國神社——三十三間堂——智積院——  
京都タワービル15:00——15:30京都駅

#### (感想)

鴨川沿いに、小雨の中を下鴨神社までの道は何とも言えぬ情緒があった。下鴨神社でも拝観者は僕達だけ。建物も素朴で、心の安らぎと落ち着きが得られました。来たかいがあった。豊國神社は予定外。近くまで来たついでに、ちょっと立ち寄ってみたら、これが以外に良かった。秀吉、秀頼の字のうまいこと。

京都駅の入場料30円は何とかならないのか。

### 第13班

奥羽史子(B) 伊達淳子(B) 鈴木佳子(G) 小室恵美子(H)

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:20——バス停8:50——到着9:50——寂光院10:10——三千院11:25——曼殊院14:13——詩仙堂15:30——バス停16:20——到着16:50——旅館17:10  
(感想)

この日見学した場所が一番よかったですとグループの意見が一致した。しかし、曼殊院を除いて、見学者が多くてゆっくり思うように見学できなかった。あまり人が多くてうんざりしてしまった。

三千院では庭園もよかったです、あんなに仏像を近くで見たのは、はじめてだったので印象強かったです。

曼殊院は最初「見学はお断り」などと書いてあったので、びっくりしたが、なんてことはない、「おまいり」をするのはよかったです。庭がかなり凝っていて、昔の人の思いつきに感心した。

詩仙堂は女性に人気があるということだったが、たいして事はなく、印象が薄い。

### 第14班

森厚子(B) 伊藤公子(B) 紫田佳子(B) 杉浦晶子(B) 野田和美(B) 相川玲子(B)

### 8月22日(木) (見学コース)

御殿荘8:20——光明寺着8:45——光明寺発10:45——南禅寺着11:10——南禅寺発12:40——御殿荘着1:10——御殿荘発2:00——四条通り散歩2:45~4:00——知恩院着4:20——知恩院発5:00——御殿荘着5:20  
(感想)

グループ内に体の具合の悪い者が出たので予定変更、徒歩で回れるお寺にした。大本山黒谷金戒光明寺は俗名黒谷様と呼ばれ法然上人のひらいたお寺で、大きくとっても素適な

寺であった。いわゆる名所ではないので、見学者が誰もいなくて静かだったのでよけい素晴らしかった。お寺にお餅を届けに来ているおじさんに寺の由来やいろいろな話を聞いて、大変面白かった。そして、その人のおかげで立入りできない大方丈まで見学をすることができた。三重塔に向かって、石段を登って行くと両側はずっとお墓でもう墓石が朽ち果てたものもあり、長い歴史の重みを感じさせる。塔はたいへん鄙びた、落ち着いた感じで、地味な所が気に入った。塔の裏手には非常に古い墓があり、松平家の墓やその中の琴姫の墓もあった。みんなここが気に入って2時間あまり見学して歩いた。

南禅寺は人が多くて、あまりおもしろくなかった。ここでは湯豆腐がたいへんおいしかった。

知恩院は夕ぐれ時で落ち着いていた。

## 第15班

江口誠敏(B) 且尾衛(B) 西垣晋一(B) 花岡正明(B)

### 8月23日(木) (見学コース)

御殿荘——平安神宮——南禅寺山門——南禅院——奥丹（湯豆腐）——知恩院——方広寺  
鐘楼——三十三間堂——京都駅

#### (感想)

平安神宮は建物の色がけけばけしい色をしているので、イメージからいうとざわざわしている感じがするが、雨だったので、おちついて雨の中のよさがあった。

石川五右衛門が登って「絶景かな、絶景かな」と言ったという南禅寺山門はさすがに雄大で南禅寺的一大景観となっている。この為、西にある勅使門は小さく見える。中の方丈では狩野氏の虎の壁画を見た。また、南禅寺と言えば一つ有名なものがある。それが湯豆腐である。京都のしみじみとした風情が一層淡白な味を演出する。我々もこの機をのがすまいと「奥丹」という所に入った。ここは一見寺の塔頭へ入るような土壁の門庭にさりげなくおかれた石、また雨の中の木々と大変結構であった。味はもちろんのことよかったです。田楽、ごまどうふ、精進あげ、とろろ汁、と次々に運んでくる。食べる事に熱中して、ふと外を見たら雨はもうやんでいた。きっとこの素朴な味に石川五右衛門も舌づつみを打ったかもしれない。食べ終って始めて勘定のことに気がついた。一人前九百円であった。

大文字旅館1:15——春日大社1:40——手向山神社2:30——三月堂・二月堂3:15——

大仏殿3:35——興福寺国宝館4:30——旅館5:30

#### (感想)

雨が降っていたが、小雨だったので参道を歩いている時は、かえってしっとりした感じでよかった。参道の両側には石燈籠が並ぶ。その上り坂を上ると左手に赤い南門があり、いかにも神社という感じがした。その中の回廊や殿には、千以上の燈籠があり、赤い殿舎にこの青緑色の燈籠が落ち着きを感じさせた。

三月堂の堂は今、再建中だったせいか、内部は真暗で、少し時間がたたないと目が慣れないでほとんど見えない。でもこちらから見えなくとも私自身は、すべてを見ぬかれているような気持ちになった。そしてどれを見ても力強さを感じ、こわいような感じもあった。

## 第18班

甲泰宏(B) 浅原寛人(D) 斎藤雅彦(D) 池上良次(E) 横田香苗(E) 相川好子(F) 石田千恵子(F)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:15——14:10淨瑠璃寺15:47——16:30奈良公園——17:10大文字旅館  
(感想)

雨が降っていたために、予定のコースである淨瑠璃寺・岩船寺間の山歩きを中止しなければならなくなり、石仏群を見ることができなかったのは大変残念であった。

寺で15分ほどにわたって、如来と菩薩の違い、極楽と浄土の違いなどの説明を楽しく聞かせてくれたので、その後の寺の見学に役立った。

金堂と池をはさんで反対側に塔があったが、塗り直したばかりで、色が鮮かすぎ趣がなかった。カラーフィルムなら色鮮かな方がいいが、寺などは色あせた方が時の流れみたいなものを感じさせると思う。

寺の鐘はつき放題で、ほかの寺みたいにお金はとられない。目の前に池をのぞみながら鐘をつくのは、なかなかいいものである。ただし、あまり力むと鐘木が柱にぶつかるので注意した方がいい。鐘の音は以外に大きく、余韻が長いように感じた。鐘の中に頭をつっこむと、もっと長い余韻とせみの声とを、同時に味わうことができるのではないかと思う。

奈良公園の鹿は十分な食事をとっていないらしく、相当食欲旺盛であった。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:15——9:50苔寺・松尾神社・月讀神社——11:50嵐山12:37——13:30京都  
タワー14:10——15:30東本願寺15:50——16:30加茂川の川原——17:10御殿荘

#### (感想)

苔寺は時期が早いせいか、まだ緑が淡く、とくに美しい庭園だとは思わなかった。

苔寺から嵐山までのハイキング・コースには、椿の花がたくさん咲いており、あまり人が通らないので、なかなか感じがよかった。途中には、月讀神社や松尾神社があり、是非

## 第17班

高橋正明(B) 中村滋(B) 三川卓(B)

### 3月20日(月) (見学コース)

勧めたいコースである。

松尾神社では、おしゃもじに願いごとをかけて祈禱してもらったものがあり、見ていてもたのしい。また途中、どこの寺なのかは知らないが、木彫りの鳳凰を屋根につけた建物などもあり、見物にもいいと思う。

黄昏時の加茂川は、大変美しかった。川原はちょっとした公園のようで、そこの芝生にすわって、水面に映る沈みゆく夕日を見るのもなかなかいいもので、自分が何かの小説の主人公のような気になってくる。

京都の喫茶店「永楽屋」のホットケーキはシロップをかけない方がおいしいそうである。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:10—10:20寂光院10:50—11:15三千院12:00—14:00京都駅

(感想)

大原へは、バスで1時間かかるので絶対にすわっていった方がいいと思う。(バスは大変混んでいて、よくゆれるから)

この日は大変人が多くて観賞などというには、ほど遠い感じがした。

寂光院の説明は大変簡素で、聞いていても聞かなくてもたいして変わりがないように思えた。庭園全体が小さく、「心」という字を形どった池以外は、特にみるものはなかった。

それに比較すると、三千院の庭園は大変きれいに感じた。(大きかったせいかも知れない)雨の日には番傘を貸してくれて、なかなか風情があった。ゲタも貸してくれるが「一見便所用」というものなので、ちょっとがっかりした。参道は雨の日だとちょっと歩きにくいかも知れないが、ぼくは雨の日の方がよいような気がする。庭園を眺めて「女ひとり」の歌の情景を想像してみるのもいいと思った。

門前の茶屋で食べた「とろろそば」は大変おいしく、本来はうどん党であるぼくも、すぐに気にいってしまった。でも、あの量に対して、230円は少し高いと思った。

### 第20班

阪川肇(C) 小島正之(B) 森井茂弘(B) 小林隆治(D) 角田昌義(D)  
井本秀之(D) 大谷純一郎(E) 吉安俊介(E) 岩本広美(G) 鈴木章一(G)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—奈良公園—13:30東大寺14:15—14:24国立博物館15:30—15:34興福寺国宝館16:30—16:41春日大社17:15—17:30大文字旅館

(感想)

奈良の見学の感想は何もない。中学校の修学旅行のとき拝観したものばかりである。しかし一つ推薦したいものがある。それは国立博物館である。奈良の寺院・仏像が一目でわかるようになっている。最初にそこを見学して、東大寺・興福寺などを拝観すると、よりおもしろいものである。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:15—9:36化野念仏寺9:56—10:01祇王寺・滝口寺10:40—10:50—落柿舎10:55—11:00二尊院11:35—13:06京都御苑—13:25御所14:25—15:00祇園・二寧坂・産寧坂—15:30清水寺17:01—17:30御殿荘

(感想)

化野念仏寺：境内にはこの付近から出土した無縁化した石塔がぎっしりと並べられ、その一つ一つの石塔が人の世の無常を語りかけるかのように不気味な雰囲気を漂わせているが、竹林が美しい。

祇王寺・滝口寺：竹藪と楓と苔の緑につつまれ、しっとりとした落ち着きを感じさせる。祇王寺に来たら滝口寺を拝観すべきである。何もないところであるが、平家物語にある滝口入道と横笛の悲恋物語の舞台であり、そこを管理しているおばさんが話してくれる。

落柿舎：建物・庭などはたいしたことがないが、落柿舎というものに愛着をもつ人の多いのはなぜであろうか。落柿舎の経歴・名の由来を調べるとおもしろい。

京都御所：役目を果たし終え、今では必要ないようであまりおもしろい所でもない。京都の人もあまり中に入ったことがなく、観光客、特に外人が多いようである。紫宸殿などは遠くからでしか拝観できないのにもんぺ姿のおばさんがトコトコ歩いていたのが印象深い。

清水寺：清水焼きのみやげ物の店が並び、京都らしい雰囲気が漂う。清水の舞台の上で「絶景かな」と叫ぶのもよいだろうし、飛び降りてみるのも格別ではないだろうか。

この22日のコースを推薦する。人も少なく時間もからなく。楽しく拝観できる。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—10:22三千院・勝林寺・後鳥羽天皇陵・順徳天皇陵12:30—13:45京都タワー・タワービル3:00—3:15京都駅

(感想)

三千院：一段と高くなった石垣の間に、古びた御殿門がいかにも格式高い門跡寺院にふさわしくどっしりとした構えをみせている。拝観料150円は高いが、中の庭園、深い杉木立の中に包みこまれるように立つ本堂の簡単なたたずまい、一面の苔がすばらしい。本堂は古く、屋根が樽皮葺るのが印象的である。本堂は庭の真中にある。ちょうど雨が降っていたので番傘を借りて、拝観に行った。庭は30分ほど見ていたがあきない。

勝林寺：三千院を過ぎ、少し行くと勝林寺がある。三千院とは違い、人は一人もいなかった。ここも一面苔におおわれており、そこに一つの建物があるだけであった。ここが法然上人が宗論を戦わした「大原問答」の場所とは思えない静かなところであり、三千院とは違った良さがあり是非三千院と一緒に拝観すると良いであろう。

### 第21班

中村靖(C) 苗代義則(B) 土橋英三(C)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館——興福寺——東大寺——春日大社——新薬師寺——大文字旅館  
(感想)

新宿駅前では30円のファンタが何と三月堂付近の売店では60円もした。コカコーラボトルアーズは何をやっている!

三月堂内は暗かったので、N君が「ぼく、ちょうどカイチュウデントウを持っているから照らそう」と言ったら、堂内の人人がN君のまわりに集まってきた。ところがその光の弱さときたら話になりません。そばのおじさんが「それでもないよりはました」と言いましたが、N君は恥をかいたと嘆いておったのです。これからは、大型のものを持っていきましょう。

新薬師寺の堂内では、生まれ年のところにろうそくをともして、健康の安全祈願をしていました。そしてそこでは、ウマ年やヒツジ年が多くろうそくに火がついていて、多くの新宿高生が訪れたんだなあと思ったんだべし。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘——鞍馬寺——大徳寺——金閣寺——竜安寺——妙心寺——御殿荘  
(感想)

鞍馬寺に行くには京福電車を利用しましたが、駅でキップを切る駅員さんが、これから旅に役立つだろと電車の系統図をわざわざ電車の車内まで、持ってきてくれました。京都の人は親切です。(感激)

大徳寺・銀閣寺の人の込みようときたらばそのすごさに目を見張るばかり。情趣がなくなった。竜安寺もそのようです。

妙心寺には閉門まぎわ(PM3:50)に入ったこともあって、係員の人がていねいに説明してくれました。そのため、門限に15分遅れてしまったのです。あまりバカていねいに説明してくれるのも有難迷惑なのです。

退蔵院の余香苑には人の姿もなくて、禅寺の枯山水の庭ばかり見てきたので、水を不斷に使った庭がとても新鮮に見えました。私はこの庭が一番良いと思いました。

団体さんの利用法:後ろへついていくと、ガイドさんの説明が聞ける。

### 3月23日(木) (見学コース)

大文字旅館——南禅寺——知恩院——智積院——三十三間堂——養源院——京都駅  
(感想)

南禅寺には開門と同時に入ったので、院内には人影もほとんどなく、ゆっくりと見ることができました。枯山水の庭も人のないところではすばらしいものです。1時間もその庭をじっくり眺めていました。朝露の中に煙る庭はやはり、心を落着けるものを持っているものであります。

知恩院のひどさは、旅行中最大。団体はうじゅうじゅいるし、もうダメ。後輩よ、知恩院へ行くな。ただし、あそこの休憩所は無料だし、お茶もただであるからして、弁当を食べるのに都合がよろしい。

知積院のおじさんは、拝観料が150円のところを団体の100円にしてくれました。感謝

感激あめあられ。

養源院のお坊さんは、詳しく説明してくれましたが、集合時刻は刻々とせまり、時計とにらめっこをして、あまり説明を聞く余裕がなかったのです。私たちは、どうも最後の場所でいつも手間どるようです。

### 第26班

斎藤成(C) 上原一郎(C) 栗屋光弘(C) 土屋敷彦(C) 松村秀典(C) 福本一夫(A)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館——大仏殿——戒壇院——興福寺——大文字旅館  
(感想)

始めから春一番に出食わすなど班員の無力感を誘発し、更に大仏様には悪いけどドッヂラケのゴミゴミとした所へ行くなどコースの選択に難点があり過ぎたのは認めざるを得なかった。グループ行動とはいえ、班長の1人よがりがきつかったのかもしれない。雨、まったくいやな奴だと思えてならなかった。

ディスカバージャパンのことばは、ディスカバーミィとも言えよう。東京の私たちが大仏殿を出ての第一声が「人のいない所へ行こう」というのはまったくの心情であった。本当に大仏が小さくみえてしかたがなかった。(別にぼくらが大きいわけではないけれど、人の多さによって小さく見えたのだろう) 旅館に一番乗りしてみんな全く疲れちまたのは何でだろうか。

それはたぶん、新鮮な感激がなく、それが既成のものでしかないからとも言える。ただみんながホッと息をついたのは、なんと戒壇院の裏の境内の隅っこなんだから皮肉なものだよ。

これが東京人の悲しみなのかも、いや旅行とはこんなのがいいのかもしれない。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘——天橋立——御殿荘  
(感想)

班員が1人移籍し、5人となった。全校の選択コース8つぐらいの中の一つであったEコース天橋立に行ったのが、一班5名とは不思議だった。でもそれだけに私たちの優越感というか興味はひとしおだった。天橋立・日本海を全員が初めて見たのと、太平洋とのあまりの違いに声も出にくいようだった。春のうららかさの中に日本海からの染み渡る風、人の殆どいない様は心にキュッとくるものがあった。白い砂に足を投げ出し、真青なやわらかい空を寝っころがって見とき、ここで昼寝でもするかという感じにさせられた。「天橋立はくだらないよ」というかわいそうな連中もいるらしいが、そこにはことばには出せない静かなるよさが充分ある。

また、股の下からのぞくのが常のようだが、みんな歩くだけで最高にしびれちまって「も

ういいよ」という満足感があった。寺を人波に押されて見るより、せっかくの修学旅行を（特にいつも時間に押されているぼくたちにとって）有意義に過ごすには天橋立のような自然との対話なんでものもいい。人工の美がいくらよくとも、それが自然の美の持つ純な感動は、いだし得ないものと痛感した。でも時間をかけていくかいはあるが、2度は行かない方がいいということも言える。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘—金閣寺—竜安寺—仁和寺—嵐山—西芳寺—京都駅

(感想)

初日ほど雨を嫌ったことも珍しく、最終日ほど雨をうれしく思った日もなかった。竜安寺～嵐山～西芳寺と回った人はわかるだろうが、それは雨の映える庭なり景色なのだ。

金閣寺はまさに団体という学校公害に閉口し、迷子というおまけまでついていやなムードだったが、それを一掃したのが竜安寺の石庭だった。床の冷たさと石庭の壁のなんともいえない古さにも圧倒され、「語る言なし」という次第。

竜安寺から放心状態のまま嵐山の雨に咽んだ山を見た時“富士を下に見る嵐山”というような感じがしないでもなかった。落ち着いた苔寺にしつとりと落ちる雨々、そして枯山水に厳を感じた。石組にも言い知れぬ情緒を覚えた。ところが西芳寺なら寺があるはずだと思ったが、なんとあったはあったがその寺がチャチで、苔1本にも及ばない雰囲気だった。有名な中には決して名劣りするものでない真のものがあるということがわかった。

京都の八条口に着いた時、たいしてがんばったわけではなかったけれど班長なんて仕事を解任させられてホッとしたのは今でも助かったと思った。総体にまあよかったのだろう。

### 第28班

坂本健二(C) 比谷茂(A) 宮川淳一(A)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13：05—13：25東大寺—二月堂—三月堂14：00—14：45法華寺15：00—15：05海竜王寺15：45—16：00不退寺16：40—17：00大文字旅館

(感想)

観光地化されてしまった東大寺・二月堂・三月堂を離れて、我グループは法華寺へと道を急いだのである。法華寺の静寂とした庭は、立看板がいささか気にはなかったが、その美しく清掃された清々しさは心に残るものだった。法華寺を後にして歩くこと2分たらず、土壁の崩れの気になる海竜王寺に着いた。拝観者も我等4人と、寂れた寺であった。しかしこの寺を訪れて初めて奈良の良さ、古さ、さび、etc というものに触れたようだった。寺はともすれば通り過ぎてしまいそうな小さなものであったが、我々の心に残ったものは大きなものであった。そんな海竜王寺を後に、我々は関西本線を横切り不退寺に向かった。そんなとき、メンバーの1人が踏切りで汽車を見て、狂わんばかりに喜んだ。(結局狂った

のだが)

水田の中にあるような不退寺に入ると、我々の感情は絶高潮に達した（ショットオーバー）、寺の良さはいうまでもないが、その寺あまり人相のよくない我等にお茶をごちそうしてくれた高齢のオバーチャン「何もありまへんけど、お茶でも飲んで、ゆっくりしてておくんなはれ」アーア！なんという気高さ、美しさ！女の人の歳は良くわからないけれど、もう二度と会えないかもしれないあのオバーチャンに別れを告げて、我々は帰路についた。京都でも“絶対に鄙びた所ばかり見て歩くぞ！”と、固く心に決めながら…。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8：00—9：45苔寺10：10—10：30天竜寺10：50—11：05落柿舎11：10—11：30大覚寺12：00—13：30仁和寺14：15—15：05御殿荘

(感想)

奈良の思い出と京都での期待とで、我々は準備もそここに、旅館を出た。おかげでメンバーの一人が弁当を忘れ、230円もの高い金を払って、うまくもない肉丼を食べなくてはならなかった。

最初に訪れたのは苔寺である。名高い所であるのでまあ一応の覚悟はしていたものの……。受付けの娘さん、目の回りを青くして、そろいのユニホームなんか着ちゃって……でもチットも綺麗だなんて思わなかった。よっぽど不退寺のオバーチャンの方が綺麗だった。庭を回るコンクリートの道、道の横の渡し綱、いちいち気に入らないものばかり、でも相対的にみて、まあ良かった。

天竜寺に着いた我々は綺麗に整備された庭園を廻り、心という字に作られた池をなんとか理解しようとしたが無理だった。

大覚寺では、お坊さんのマイクを使った説明を聞いたり、ボタンを押してテープの標準語の説明を聞いたりした。よっぽど、お経のような寺の住職の説明の方がよっぽど良いと思ひながら……。

門前の料理屋で食べた湯どうふは、腹がへっていたせいもあって、非常にうまたかった。ちょっと汚れた店だったが、店の女の人が綺麗だった。

それから、ばかでかい仁和寺を廻って帰った。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8：00—9：30三千院10：00—10：45寂光院11：15—12：15京都駅12：45—13：00喫茶店15：05—15：10京都駅

(感想)

昨日のショックと、連夜の寝不足からメンバーもいささか疲労ぎみ。往きのバスはみんな眠りっぱなしであった。三千院には朝早く着いたせいか拝観者もまばらで、もう、慣れてしまつたボタンを押して流れてくる説明に耳を傾けながら、一応見てまわったものの、門前のそば屋のコタツでトロロそばを食べて一眠りした。値段の割りに量が少ない。

帰りのバスの中でも、乗るやいなやまた一眠り。京都駅に着いて、各人おみやげを買あさり、喫茶店で又一眠り。

この日は朝から雨模様でした。

## 第27班

今井肇(C) 川崎博行(C) 森田修司(C) 山本比呂志(C) 弓家田洋一(C)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館——大仏殿——二月堂——春日大社——不空院——新薬師寺——奈良公園——大文字旅館

#### (感想)

全コース歩いたが、時間的には十分余裕があった。しかし少々疲れたのは事実である。大仏殿は、まったく観光化されてしまっていて、おもしろくもなんともなかった。コースの中で一番良かったのは、新薬師寺である。暗い建物の中には、ろうそくの光だけがゆらゆらと、とても神秘的である。この日非常に驚いたことが一つある。それは、二月堂へ行く途中に立寄った店で普通の牛乳が50円もしたことだ。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:30——神護寺——西明寺——高山寺11:40——仁和寺——嵐山13:10——野宮神社——落柿舎——常寂光寺——二尊院——祇王寺——大覚寺16:05——17:15御殿荘

#### (感想)

この日は朝から調子がよかったです。神護寺には、知らないうちにただで入っていた。時間的に早いせいか、まわりを見わたしてもだれもいない。仏様が安置されているところは、まだ掃除中であったが、ふき掃除をしている人の尻ごしに、とっぷりと仏様を拌んできた。奥の方の地蔵院には6枚50円の“カワラケ投げ”というのがある。足の下は身の毛もよだつような絶壁で、そこを水平に投げたカワラケが舞う様は、不快なことなどすっかり忘れさせてくれる。西明寺では1回10円を正直に払って鐘をついた。さてその次には高山寺へ行ったが今日の運のよさも、これまであった。最初の計画では嵐山高雄パークで嵐山へ行く予定であった。しかし…しかし…さかしいぎバス停に着いてみるとバスのかけらも見えない。あれ！こんなはずはと看板を見ると、運行期間に3月が入っていない。こんちくしょうとみんなで互いのことを罵りあったがあとの祭り。計画は変更せねばならない。みんな落胆して座りこんだままだ。しかし、ここですくと立ち上がったのが我班の知恵袋K君である。結局K君の提案で、もときたバスと同じ路線で仁和寺へ行き、そこから京福嵐山線で嵐山へ行くことになった。さてこの京福嵐山線であるが、これがまた情趣がある。駅は駅長兼小使いさんのような人が、こきたないほうきとちりとりで掃除している。線路は単線。走っている電車は、といえば一両編成のかわいいチンチン電車である。M君とY君など喜んで、はしゃぎまわっていた。やっとのことでの嵐山についていたものの、道行く人はみなアベック。我々は男ばかりの5人グループ。みな無常感に苛まれながら、ここで昼食をとった。その後桂川をバックに記念撮影。これから大覚寺方面へ行くか、苔寺の方へ行くか、公衆便所で用を足しながら多数決をとった結果、大覚寺方面と決まった。野宮神社・落柿舎・常寂光寺とまわって祇王寺へ行った。ここでは中年の女性が、面倒臭そうに説明している。けれど参観料150円の価値はあった。これから大覚寺へ行く計画だが時間が足りなく

なってしまった。ここでまた多数決をとった。このまま帰るか、それとも急いで大覚寺を見るか。みんなの意見は一致して大覚寺を参観することになった。ところがここでも運命の神様は我々を見すててしまったのだろうか。ほとんど走るようにして大覚寺をまわって、いざバスに乗ろうとバス停まで行ったら、三条京阪行きのバスは、たった今出たところであった。あとには、排気ガスだけが、もうもうと立ち込めていた。しかし我々には運命の神様がいなくても、知恵袋K君がいる。このときも、K君の気軒でなんとか門限までに着くことができた。それにしても、忙がしい一日であった。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:30——10:30大原——寂光院——三千院——京都駅

#### (感想)

バスを乗りついで行こうと思ったが乗りおくれてしまい、そのあとごたごたあって、大原には予想以上に着くのが遅くなってしまった。まず歩いて寂光院まで行った。10~20分くらいして、建礼門院の麗しき御姿を思い浮べながら、寂光院をあとにした。その後歩いて三千院に着いた。中に入って七色にみえるという虹の襖絵を見ていたら、お坊さんがきて説明してくれた。番傘をさして、トイレで使うようなゲタをはいて、阿弥陀三尊の安置してある建物まで行った。なんと素晴らしい仏様だろう。我々は、しばし三次元世界をはなれ、幻想の世界を彷徨した。

三千院を出たあと、いろいろなところへ行ったが、みな参観料が150~200円もするので多数決により参観するのはやめにした。

## 第30班

高城俊文(C) 長野真一(C) 宮部信一(C) 若尾博明(C)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:05——13:35東大寺13:45——14:00二月堂14:25——14:45戒壇院15:

00——15:40奈良駅——16:05興福寺16:50——17:05大文字旅館

#### (感想)

旅館を出たのはいいが、雨が降っていたのでみんなの足どりは重く、目的地の東大寺についたものの、春日大社にはみな行く気がなかった。それで予定を変更して唐招提寺まで歩いて行こうとした。ところが途中にあった駅が、尻が辻と思っていたら、なんと奈良駅であった。

教訓1：お金の節約のために乗物に乘らず歩こうとするな!!

1日中雨が降ったりやんだりで、道に迷ったこともあって、今日の印象は非常に悪い。最も良かった所は奈良公園の鹿と興福寺であった。

教訓2：燈台の下には、やはり良いところがありました。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:05—8:25平安神宮8:55—9:50三千院10:25—11:00寂光院11:50—13:30大徳寺14:24—14:50竜安寺15:40—15:47仁和寺16:17—17:00御殿荘

#### (感想)

大原行のバスの時刻を前もって調べておいたので、写真をとったあと、すぐマラソンでバス停まで走ったが間にあわず、一日中時間におわれているような感じだった。それでも三千院に着いたときは、あまり人がいなくて見ごたえがあった。けれど寂光院は狭くて人が沢山いたうえ、150円もとられたこともある、最悪の地だとみんなで嘆いた。竜安寺は着いたのがおそかったので、ものすごい人である。入波の間からみた庭園は、なんだかまったく情趣がないような気がして、残念であった。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—9:20苔寺10:15—10:40天竜寺11:40—12:00落柿舎12:05—12:15二尊院12:45—12:50祇王寺13:30—14:35京都駅

#### (感想)

今日も雨が降ったが、最初に行った苔寺は霧によって苔色というか緑色というか、非常に映えていた。それにまわりが静かなこともあって、落ち着いて庭を見ることができた。2日目に行った長谷寺・室生寺を除けば、旅行の中で一番心に残る寺だと思う。その後天竜寺・落柿舎・二尊院・祇王寺と、一応みてまわったが、雨のためにゆっくり観賞することが出来なかった。

### 第33班

石井真喜子(D) 中村未央子(D) 堀川広子(G) 松尾菊(G) 湯川亮子(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館—長谷寺

#### (感想)

桜井へ向う国鉄が1時間に1本しか出でないので、充分に駅へ行く為の時間をとったのですが、旅館を出発するのが遅れてしまい、国鉄奈良駅までは必死で歩きました。その上、風が強く、雨も降っていたので大変でした。でも長谷寺にはそれだけのことはあったと思います。長く続く回廊と、ちょうどお彼岸だったので、本堂ではお経をあげておりました。その声を聞きながら見る長谷観音は、ろうそくの光の中で、とても神秘的でした。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘—広隆寺—西芳寺—地蔵院—天竜寺—野宮神社—龜山神社—大河内山荘—常寂光寺—落柿舎—祇王寺—御殿荘

#### (感想)

国宝の広隆寺弥勒菩薩は、本当に“永遠の微笑”という感じです。ここはほとんどが木造の仏像でした。天竜寺から祇王寺までは全部徒歩だったので、竹林を充分見ることができました。祇王寺は尼寺らしく、ひっそりとしていましたが、人が沢山いて残念でした。大河内山荘はあまり知られていないので、人も少なく、庭は京都の町も見渡せ、また保津川の眺めもとても美しいと思いました。嵯峨野のお寺も素適ですが、竹林を見ながらブラブラと歩く気分も、何とも言えません。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘—上賀茂神社—円通寺—清水のさんねい坂とにねい坂—円山公園—八坂神社—祇園—京都駅

#### (感想)

上賀茂神社は、どおいうわけか私達の他に全然人がいなくて、不思議でした。円通寺は参拝時間が9:00~5:00までと思っていたのですが、本当は10:00からだったので寺へは一番のりでした。比叡山が庭の景色の一部となっている借景庭園は、ちょうど小雨が降っていて、遠くに比叡山もかすみ、お坊さんも「今日の庭園はすばらしい」と、おっしゃっていました。清水の“さんねい坂”と“にねい坂”には、京都らしいお店がずっと並んでいて、ここで買い物をしました。

### 第39班

小久保和子(D) 村田京子(A) 山田圭子(A) 森山朝子(B) 大松沢美枝(D) 田中淑恵(D)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:10—14:20慈光院14:50—15:15法起寺15:40—15:45法輪寺16:10—16:30法隆寺—17:35大文字旅館

#### (感想)

今日大分強行軍のようでした。法隆寺は門の前までいったにもかかわらず、時間がなくて見られませんでした。とても残念でした。やはり、半日でかかるがの里を回るのは無理なようです。

慈光院は、観光バスと一緒になってしまい説明を聞けたのは良かったのですが、なんかおいたてられているようで、落ち着けませんでした。

法起寺は、田んぼの真中に静かに立っていて、拝観客も10人ぐらいしかいなくて、とても落ち着いた雰囲気で良かった。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:10—9:30寂光院10:10—10:50音無ノ滝11:10—三十三間堂13:10—13:40清水寺—17:00御殿荘

(感想)

大原へは、出町柳からバスに乗ったわけですが、なにもそこまでいかなくても、熊野神社前もバスが通つてると知って、損したなあなんて思いました。

音無ノ滝は、僧良忍が声明が滝音に乱れるのを恐れてその音を崇めたといわれるのでどのようなものか期待していったのですが、山道を30分も歩いていくところではないよう気がしました。確かに滝はとても素晴らしかったのですが、辺りはゴミばかりで、とてもそこで昼食をとる気がしなくて・・・。

三十三間堂は、3年前よりもっと深い感動をもって参拝しました。

清水坂ではおみやげを買うのに6人まとまってたら思うように買えないで、2人ずつ別れて坂の下で待ち合わせをしたのです。ところが、その待ち合わせ場所があいまいだったため、ちょっとトラブルが起つて……やはり常に6人で行動したほうが良かったようです。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:20—9:00東本願寺10:00—10:05京都タワー11:00—11:20新京極—12:40—東寺—15:00京都駅

(感想)

今日は予期しない雨が降り、また西芳寺にいく人があまり多いのでコースを変更しました。京都付近を廻ろうということになったので時間の無駄が多くなってしまいました。

雨に煙る京都の街は、きっと情趣のあるものだろうと期待して京都タワーにのぼったのですが、ほとんどなにもみえなくて少々がっかり。

京都駅に着いた時は、旅行の疲れがでて、ぐったりしてしまいました。

第41班

坂本有子(D) 川島宏美(C) 佐久間典子(C) 五十嵐恒美(D)

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘—苔寺—嵐山—落柿舎—野宮神社—二尊院—祇王寺—天竜寺—金閣寺—御殿荘

(感想)

京阪三条でなかなかバスが来なくて随分待たされた。バスの中から時々新宿高校生が歩いているのを見かけて、

「京都ってせまいな——」

苔寺は朝早かったので靄がかかって寒くてとてもいい感じだったが少し人が多すぎた。

嵐山では予定外に鳥羽船に乗ってしまった。私たち4人に船頭さんが1人ゆっくりゆっくり川を登りました。お弁当を食べながら「気分いいね」そこへ1艘の船がよって来て、なにかと思ったら、甘酒に、おでんに、ファンタに、ジュース。私たちの中で1人大変甘

酒の好きな方がいました・・・大変風流でした。あれは、やっぱり京都ならではだと思います。

落柿舎のあたりを見てから大通りに出てバスに乗ろうと思ったら、停留所はあったのですが、金閣寺に行くバスがわからない。そこでしょうがないからやっと1台来たタクシーに乗りました。もっとちゃんと調べるべきでした。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘—知恩院—青蓮院—清水寺—京都駅

(感想)

朝から雨、市電に乘ろうかとも思ったけれど雨の京都を歩くのもいいというので知恩院まで歩く。知恩院では雨がザーザー。本堂は、大変大きくて「大きいネ、大きいネ」の連発。出て来たところで、先生方とバッタリ。ああいうところで、先生なんか（失礼！）と会うとなんだか嬉しくなりました。塔のところでは石がたくさん積んであって、私たちも負けじと石を投げました。しかし、コントロールが非常に悪いので、まるで塔に一生懸命石をぶつけているようでした。そこで女の人がよってきて、怒られるのかと思ったら「石を積むの、意味があるのですか？」と聞かれました。なにしろ、私たちは浅はかなもので、人がやってれば、自分たちもと意味も知らずにやってしまうのです。本当はどういう意味があるのでしょうか？

青蓮院は、全体が本当に昔の生活を思わすようで、素適でした。

祇園からバスに乗ったら、京都駅まで20分位で、あまりに早く着きすぎて時間をもてあますほどでした。

第42班

岡田隆(D) 長沢孝志(E) 鈴木輝男(F)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—13:40秋篠寺14:15—15:15唐招提寺16:00—16:30垂仁天皇陵—17:20大文字旅館

(感想)

この日、最初から小雨がぱらつき、天候的には恵まれなかった。秋篠寺は、西大寺の北西に位置する割に小さな寺で参拝者は割合少ない。その事が、この寺の静けさを保って、大和の風情を漂わせてくれた。本堂はうす暗く、北側に添って、南向きに仏像が一列に並べられている。薬師如来を中心に21体の仏像がある。特に我々の目を引いたのが、如来をはさんで両側に2体ずつある12神将像である。顔の恐さで有名な岡田君がにらめっこをしてみたが、圧倒的に負けた。12対1じゃかないっこないのである。また我々が、体験したことによると坊主も女にや目がないのである。たまたま、同行した本校の女子のグループが我々の拝観中に若い坊主をガイドに仕立て上げてしまった。彼女らの曰く、「女性の特

權を最大限利用したまでよ！」我々男共は、ガイドの付いた彼女らを横目で見ながら次の目的地唐招提寺へと向った。

唐招提寺はかの鑑真で有名なだけあって、観光客で満員であった。本校の生徒ともしばしば顔を合わせた。特に団体客が多く15分ごとにやってくる。これには、我々3人、静かに大和の味を味わいたい気持ちをめちゃくちゃにこわされてしまった。ところがこの団体客も使いようがある。「何とかも使いよう。」とはよく言ったもの。この団体客にはたいていガイドがついている。したがって、これにまぎれ込んでいれば、女性ガイドの悩ましい声で説明が聞けるというわけ。いかがですか。唐招提寺で一応見学をしあわってたのが4時、門限にはまだ1時間半もあったので、徒步で乘仁天皇陵を訪ねようということになった。雨の中、近鉄線の西側に沿って30分ほど泥道を行くとちょうど丘陵のまわりの池の辺りに着いた。そして、しばらく散歩して池のまわりを歩いて行くと我々の歩いている道が針金で囲ってあるではないか。あわてて、柵の外に出て看板を見ると「立入禁止宮内庁」なんて書いてある。ああ吃驚した。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:20—10:10神護寺11:25—11:45西明寺—12:15高山寺13:00—14:00大覚寺14:15—15:20苔寺16:20—17:25御殿荘

#### (感想)

3日にしてようやく晴れ上った日本晴のこの日、我々は、三条からバスに乗り高雄に着いた。長い階段を降りて行くと小さな川にかかる橋を渡る。そこで、やはり東京から来ているらしい女性の一行といっしょになった。階段が目の前にさしかかった時一行が駆け昇りはじめたので、我々も負けてはならじとかけ上った。バスケット部所属の岡田君は樂々と上まで上った。これがいけなかったのである。後で、へとへとに疲れる原因となる。神護寺はこの階段をのぼった所にある寺で、まことに静かである。門には左石に恐い顔をした力士像が立っている。金堂内には薬師如来を中心に秋篠寺とよく似た順序で仏像が並んでいる。ここでもやはり、四天王立像と十二神将像の力強い躍動美が我々の目を引いた。外に出ると金堂より一段高い所に立っている多宝塔が赤い壁を見せており、非常によく目立つ。我々が気に入ったのは、地蔵院の前の掛けの上から見た景色である。眼下にすばらしく美しい谷が見える。甘い空気をすって、淡い緑の繁った山並を見おろし、気持のよきそうな細い谷川の深く割れこんだ谷底を見ていると何とも言えない快感を感じる。これが秋で、紅葉の季節ならまた違った味が出るのではないだろうか。そこから、高雄橋まで降りて清滝川に沿って上って行くと西明寺に着く。西明寺は小さな寺で、これといって見せ物はなかった。ここでは1回10円で鐘をつくことができる。さらに川を下ると高山寺にする。山道に沿ってぽつぽつと建て物がある。高山寺は、神護寺に比べると建て物の色も褪ていて、まるで華やかさがない。またそこに一層深く風情を感じた。その中で一際目立ったのが聖観音像のやさしい顔であった。高山寺からはバスなどを利用して大覚寺を廻り、さらに目的地の西芳寺に至った。西芳寺は広さのわりに観光客が多く庭園内の道は人の列のとぎれるすき間もない。さすが、西芳寺は苔寺と呼ばれるだけあって苔だらけである。岡田君の足の毛だらけで有名であるが苔寺の苔だらけはこれに優る。苔を取り去ったら、このあふれるような観光客も半減するのではないか。苔さまざまの苔寺でアッタ！

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:30—8:45銀閣寺9:40—9:50法然院—10:40南禅寺11:20—12:20大徳寺14:15—15:15京都駅

#### (感想)

この日はまたもや朝から小雨がぱらつく天気。この辺鹿ケ谷は私の生まれ故郷であるためか、天の神さまが我々の訪問を喜んで泣いていらっしゃる。そう思いながら銀閣寺の門をくぐった。くぐったとたんその整理のいきとどいた庭園の美しさに目を奪われた。本堂の白い壁はだ。そのすっきりした美しさは、あの金閣寺の金色の壁に少しも見おとりしない。いやそれどころかもっと素晴らしい。すこしも華やかさはないのだが、他にこれ以上美しい寺はありえないと思うほど美しい。ここに足利義政の美的センスの素晴らしさがうかがわれる。金閣寺からはいわゆる哲学の道に沿って南下した。美しい緑や寺や神社に囲まれすき通った水の流れに沿ったこの道を歩けば、実際落ち着いて思案できるであろう。毎日ここを散歩できたらなあと思案をめぐらしながら歩いて行くと永觀堂を通り、南禅寺に至る。東山高校のすぐそばにあるため、彼らの運動場になっている？観がある。最初は南禅寺からさらに京都駅まで徒步で進む予定であったが、雨も降ることであるし急遽計画を変更して大徳寺へと向かった。大徳寺とはまことに広いうえに寺があるわあるわ。まるで寺のデパートのようにわんさかある。我々はこの中から、若い色男の和尚で有名な大仙院を訪れた。この和尚の元気のいいこと、横文字まじりの大演説、「いま、この寺がんばらんで、いつがんばるんや、今この瞬間をいっしょけんめい生きるんや。」まことであつた。いわゆるスター的存在である。京都の寺の経営も人気商売と化したかとおかしいやらがっかりするやら……。

高桐院は静かな、もみじだけの庭園があるだけ。建て物内部にある薄暗いせまい茶室がなんとなく頭に残っている。

### 第43班

青木秀夫(D) 永見章(D) 深沢泰郎(D) 藤原雅夫(D)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館—鷺池—新薬師寺—滝坂道—寝仏—朝日観音—地獄谷新池—地獄谷—地獄谷石窟仏—高円山ドライブウェイ—大文字旅館

#### (感想)

地獄谷新池がとても良かった。時間があったらこの池を一周したほうが良い。道が案外きついから少し用意したほうが良い。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘—三千院—寂光院—大原—鴨川かわら—御殿荘

#### (感想)

大原は少し人が多かったが良いところだ。知った顔によく会った。

夜、京都タワーに行きました。夜景が大変素晴らしい。ここでメダルを買いました。それにローマ字で自分の名前や好きなことをつけることができます。1回20円です。F君は2回も失敗して40円を無駄にしました。というのは、その字をつける機械の使い方が難しいのです。よく係の人聞いたほうがよろしい。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘—青蓮院—知恩院—清水寺—京都駅

(感想)

清水寺はたいへん大きかった。大きいことはいいことだ。青蓮院は雨が降っていて人が少なかった。しみじみと味わうことができた。ただし清水寺は人がたいへん多かった。ここでみんなはハツ橋を買いました。その店はハツ橋を試食させてくれた上、お茶まででたんだよ。だから買ったのだ。

の味を知ることができたような感じがした。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘—通天閣—大坂城天守閣—15:00京都駅

(感想)

修学旅行の最後の日がとうとう来た。しかし、生憎朝から雨が降っていた。私達の計画は雨になら…などとは少しも考えていないかった。雨の場合の見学場所というのでは、あまり歩かないでしかも寺などの建築物や中の仏像などを見るのに限られることはいうまでもない。しかし4日(うち1日はクラスで行動)中、寺ばかり仏像ばかりでは興味がない。しかも得てしてそのような所は中学の修学旅行へ行って新鮮味はあるでないような所がほとんどである。だからこのような計画を再びたてる機会を振りに得たなら(私達はもう絶望である)雨天も考慮にいれて、雨天の場合に行く場所も検討してみたいと思う。そして下調べも雨天だからといっておこらないで、きちんとして行きたい。

### 第45班

桑田満(D) 小池宏明(D) 蒔田守(D) 藤井静雄(D)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—三月堂—二月堂—大仏殿—興福寺—大文字旅館

(感想)

奈良での第1日目、半日しかなかったが印象に残るところもあった。

三月堂(法華寺)の仏像の安置されているところへはいると、暗くて仏像がそこにあるということが確認できるぐらいだったが、次第によく見えるようになった。(よく見えると言ってもはいった時よりは・・)。仏像が素晴らしいということは他の寺の仏像と変わることだが、うす暗い神秘的な所にあるということは、その仏像の価値を数十倍にしてくれる。

奈良は自由行動が半日しかなかったが、自覚をもって回るということは、一日中行っても得がたいもののように思えた。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘—寂光院—三千院—三十三間堂—円山公園—八坂神社—御殿荘

(感想)

今日は、この修学旅行の目的は80%成就できたといつても過言ではないであろう。その中でも最もすばらしかったのは三千院の庭園である。緑の苔とまっすぐ天を刺すような杉—何とも言葉では表わし難い素晴らしい感慨を与えてくれた。

京都の名所というと、市内の三十三間堂とか二条城とか清水寺となるが、それらのところは人通りも多いし私はあまり感動しなかったが、京都も奥にはいると本当に京

### 第46班

清水和佳子(E) 田沢優子(E) 手塚弘子(E) 新津あや子(E) 古田由紀子(E) 長倉愛(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—法華寺—興福院—16:30大文字旅館

(感想)

奈良に着くと雨が降り始め、おまけに豆台風並の風が吹き荒れて、傘と格闘しながらの一日となった。旅行案内書に書いてあるバス停がなくて乗り越してしまったり、まずまず順調な珍道中が始まった。素晴らしいのは興福院だった。

傘との格闘にくたびれ果てた私達がようやくこの尼寺に辿り着くと、今日はお休みなのではあるまいかと思われるほど人気が全くなかった。恐る恐るブザーを鳴らすと品の良い尼さんが、情緒的な奈良弁で迎えてくれてお堂に案内してくれた。全員正座して合掌しながら尼さんの話を聞いていると、全く心が洗われていくようだった。斜めにかかっている回廊から眺める庭は小じんまりとしているが、雨に濡れた緑が別世界にいるような幻想的な感じで、しばらく皆彷彿となってしまったのだった。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:00—嵐山—天竜寺—野々宮神社—常寂光寺—落柿舎—二尊院—祇王寺—西芳寺—16:30御殿荘

(感想)

「嵯峨野」ということばの響きから想像していたよりも、ずっとのんびりしてあたたかいムードがあった。野々宮神社から祇王寺まで短い距離なのだが、田舎道を暖い日射しをうけてゆったり歩いたのでほぼ一日かかってしまった。鶯の鳴き声が聞えて気持ち良かつ

たが、人が多すぎてちょっと残念な感じもした。あちこちにある茶店の縁台には緋毛せんが敷いてあって、さすが京都だなあと思った。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘 8:00 — 青蓮院 — 知恩院 — 八坂神社 — 清水寺 — 四条河原町 — 京都駅  
(感想)

残念ながら最終日の今日も雨降り！見学場所が旅館から近いので主に徒歩。連日の寝不足(?)がたたってか皆バテ気味で、これまでになく黙々としてコースを廻った。最後に行つた清水寺は、中学の修学旅行の際一度訪れたところだったが、舞台に立って見晴らすとまた新たに豪快だなあという感じがして、何度見てもいいものはいいなあと思った。清水寺へ来る途中のおみやげ物の店で見た京人形が、またとてもかわいらしくて忘れられない。

#### 第47班

中川原米俊(E) 東条光雅(D) 三崎弘士(D) 堀田光春(G)

#### 第71班

大西伸一郎(H) 神沢隆(H) 後藤周一(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館 13:30 — 新薬師寺 — 柳生街道 — 地獄谷新池 — 17:10 大文字旅館  
(感想)

始終嵐のような風と断続する雨と 100% の湿度と原始林の中をはやい速さで上りおりるのでその汗とで苦しんだ。しかし柳生街道や地獄谷の7・800年の歴史をもつ石仏(磨崖仏)群はすばらしい。大仏なんぞくそくらえといいたい気分になった。それと7~8世紀の沈黙をもつ春日山原始林のもつ自然美は、とうに寺まわりのおざなりの旅行を吹き飛ばす感があった。

そういう強行軍であったが、非常に常識破りの奈良旅行が出来たと、私(グループの者)は自負している。風のざわめきだけしかないやっと人のとうれる山の道で、全身に汗を感じて石仏を横に休む時、私たちは太古(奈良)の昔にふともつどったような錯覚さえおぼえた。なお新薬師寺は、奈良でもそうとうふるい建物でそれなりの重量感があった。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘 8:00 — 鞍馬寺 — 貴船神社 — 京都国際会館 — 大覺寺 — 化野念佛寺 — 祇王寺 — 落柿舎 — 野々宮神社 — 天竜寺 — 17:00 御殿荘  
(感想)

おとといの雨うつてかわって非常に爽やかな日だった。鞍馬山は少し残っている湿気と素晴らしい日光に照らされて、その中を歩くぼくたちは何ともいえず“爽快”な気分になつた。このコースも少し風変わりなので、人と会うことあまりなくまたもや個人的な

旅行をしている感じがした。歩くことは何の苦にもならない。

京福電車のはしまん駅前からタクシー2台に分乗して、途中京都の最もモダンな顔である京都国際会館を廻ってから一路嵯峨野に向つた。これは京都の横断で距離もそうとうあったけれど、タクシーの運転手が親切で、あちこちと案内しながら連れていってくれたのであきることはなかった。“京都のモダンな顔”と書いたが、よく京都は古い物の宝庫といわれるが、よく考えて見るとそれはその時代時代の最もモダンなものが建てられたのではないかと思う。つまり今から見ればそれが古いだけで、それはその時代には一番新しかったのである。

嵯峨野はずっと歩きながら廻つた。ここは人も多く、いささか……、の感もあつたが、とにかく良かった。

夜は大津まで足をのばし琵琶湖の夜景を楽しんだ。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘 8:00 — 三千院 — 寂光院 — 蓮華寺 — 円通寺 — 京極 — 清水寺 — 15:30  
京都駅

#### (感想)

春雨の降る大原三千院、もうそれだけですばらしかった。時間が早かったせいか、人もまばらであった。最大のひろいものーそれは蓮華寺である。人気のない観光旅行のコースからはずれたお寺、しかしそのお寺には静かな落ち着きと、モダンで知的な江戸初期の文化人の息吹きがあった。この蓮華寺というものは明らかに他の全ての京都の寺と趣を異にしている。それは建立させられ方が違うからである。金と権力で建てられた他の寺のけばけばしさはまったくない。しかし当時の文化人のその国際的感覚と、静かなる権力への反抗がうかがえる。われわれはこのようなインテリを当時にもつたことをホコリにしなければならない。

#### 第51班

水沢啓子(E) 仲田由美(C) 松岡みどり(C) 渡辺法子(C)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館 13:00 — 13:20 東大寺 14:40 — 15:15 近鉄奈良駅 — 奈良駅附近、市内散歩 — 16:30 市内循環バス — 16:50 奈良公園、博物館 — 16:55 大文字旅館

#### (感想)

合憎の雨のため予定変更をせねばならず、徒歩でも行ける東大寺見学をした。

雨の中、傘をさして歩くのは風情があるとはいっても、第一日目、朝はやくから起こされて新幹線でそそくさと京都へ着いてバスにゆられて一時間以上。やっと着いたら何と雨。

気が沈んで風情も何もあったものではない。面白くないことといったら……、私達四人、とぼとぼあてもなく市内を歩いたのみ。

どこを歩いたのか見知らぬ町中。どうでもよいとバスに乗ったらもと来た奈良公園のすぐそば。絶対に遅刻すると思ったらちょうどよい時間。どうにでもなるものだというが一日の感想。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:15—9:05嵐山駅—9:25祇王寺10:00—渡月橋10:20—10:30苔寺  
11:30—12:00地蔵院13:00—13:40二条城—14:30新京極—16:30御殿荘  
(感想)

京都市内は交通路がわかりやすく、この日はうまく行動できた。苔寺の所でタクシーをひろい二条城へ向かおうとしたが、おまわりさんが京都のタクシーは恐いから気をつけなさいと余計なことをいったので乗らずにバスで二条城へ。ところが、そこから新京極へ使ったタクシーのおにいさんの何と親切で話しやすかったこと。東京の女の子は活発で本当によくしゃべり、京都の人のように柔らかさがないなどと皮肉を言われたけれど、いろいろと京都の様子を聞かせてくれて、4人の感想は、京都のおまわりさんて恐いのね！

これでタクシー恐怖症も消えて御殿荘へもタクシーで、早く着きすぎはしたけれど京都人の親切さにふれて、4人共々温かい気持で一日を過ごせた。晴れていたのもよかったです。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—8:55八瀬遊園—9:45大原—寂光院—三千院—大原バス停12:10—13:10京都駅—15:00京都駅八条口

#### (感想)

またもや雨の一日。今までの夜更かしがたたったのか、私のみ、重い足どりでとぼとぼと皆のあとから。やっと寂光院へ着いたら、狭い所に人が多くて触れずには歩けぬ状態。興醒めもいいところ。

しかし三千院では番傘にげたで庭を歩いて人の多いのもさ程気にならなかった。こここの阿弥陀三尊坐像の二菩薩は、大和坐りという坐り方をしていて並の人間に近い印象を受けた。顔はどちらも似ていたが、これをいい顔というのだろう。二十才前後の顔であるそうだが、説明の際、半分眠っていたのでよく記憶していない。

3日目の感想としては、何とも眠かったということがあって、三日間の感想は興醒めがしないでもなかつたということである。

### 第53班

広野常也(E) 石田勝美(E) 浜中猛夫(E) 溝口謙(E)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—大池—薬師寺—唐招提寺—垂仁天皇陵—西大寺—秋篠寺

### —平城宮跡—17:29大文字旅館

#### (感想)

磁石がないために方向がわからなく、せっかくもっていた地図が無駄になった。また行った寺、特に薬師寺、唐招提寺は利益主義まるだしで、観光仏教の先端を行っているようを感じられる。またこの日は、タクシーに乗った。駅前の行先別表示と実際の料金(120円→140円)があわない。これは不当表示であって旅行者に非常に迷惑である。先程述べた磁石について、これがないために方向を90度まちがえてしまい。17:00に着く予定であったものが17:29になってしまい、駅から宿まで走り通しであった。磁石があればこんなことにならなかつたのになあと、みんなでつくづく感じた。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:10—9:20寂光院—三千院—音無の滝—大徳寺—竜安寺—嵐山—17:25御殿荘

#### (感想)

三千院の坊主の説明は、仏の教えにとってやるよりも、金目当てのようであるように感じられた。最近の坊主は、このような営利主義をもってよりいっそうの観光仏教へとみずから進ませているようを感じられる。また、坊主のおもしろい説明(くだらない)でもつて、三千院の静かなふんいきをぶちこわされて、非常に不愉快である。

三千院、寂光院は一番乗りで行くように早く行かないと、静けさ、そのものの良さを感じることができない。また新平家物語の影響で、京都大原を訪れる人が多く、非常に不快感を感じた。(ぼくたちもそのうちの一人だが?)

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:10—宇治上神社—平等院—東寺—デパート—京都駅

#### (感想)

雨の日はどこへも行きたくないようにみんな感じた。でもせっかく来たのだから予定通り行くことにした。

宇治上神社はあまり人目にふれないせいか大変すばらしく感じた。やっと京都に来て、自分たちで見つけたすばらしい所であったように班員全部が感じた。こんなことはあまりないだろうと思うと、非常に良かった修学旅行の思い出となる。

### 第54班

竹山牧子(F) 有馬真理(F) 伊藤美津子(F) 岩本真佐子(F) 渋谷洋子(F)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:35—2:30秋篠寺3:00—3:50法華寺4:10—4:40興福寺—5:00大文字旅館

(感想)

①小雨と突風とで歩くのがきつかったが秋篠寺まで徒歩で行った。説明する人が親切で燈籠や技芸天のことが記憶によく残った。左にある技芸天が優雅で美しい。

②法華寺では十一面觀音のお顔が美しい。又恋文で作ったといわれる横笛像も珍しい。

グループ別行動の第一日目であったが、まず感じたことはお寺を静かに心ゆくまで味わえたということである。やはり団体では古都のわび、さびが失なわれているようであるし、印象も薄くなってしまう。

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:20—9:40苔寺10:30—10:40嵐山中島公園—11:25念佛寺—二尊院—祇王寺—釈迦堂—大覺寺—4:00二条城4:45—5:10御殿荘

(感想)

第三日目スケジュールはずいぶんたいへんのようであったが、わりあいお寺が近くに点在していたのでそんなにいそいで行動しなくてすんだようである。

①苔寺。ぜったいに見のがせないところである。前日の雨でしっとりと苔がぬれ、ひんやりとした風とともに水のせせらぎとうぐいすの声が流れている。池と木々の配置、コケの緑と土の色それぞれがなんともいえなく調和していて美しい。ちょうど椿と梅の時期で美しさが一層ひきたてられていた。

②嵐山は中学の時も行ったが、ここは散歩をするのに絶好の場である。寺など暗い所で目をこらして仏像を見てまわっているから、このような雄大な自然の中につつまれて息抜きするのもいいものである。

③二条城。一つのハプニングがあった。4:00ちょうど城についたら4:00で最後の説明だからというので入口から…走れ走れ…であった。しかし走っただけはある豪華な建物、庭園である。なんべんおとずれてもいい城である。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:20—9:35三千院10:10—10:40寂光院11:00—12:30南禅寺13:30—清水寺14:10—15:00京都駅

(感想)

第4日目、みんな少しくたびれてきたようだったが、それに加えて計一時間半歩いたのがこたえた。しかし山の中の静かな寺だけに、わび、さびがいっそう強く感じられた。

①三千院。あいにくの雨であったが、雨の中にうかぶ極楽院もまた、格別である。中庭になっている有清園をジャノメをさして極楽院へ渡ったがとても気分が出てよかった。しかし少し拝観者が多く、ざわざわしていたのが残念であった。

②寂光院も美しかったが団体客がうるさかった。三千院、寂光院とも建物、庭園が美しく、たたずんでながめていると吸い込まれるようで、我を忘れてながめてしまう。

③清水寺に着いた時はあたり一面霧がかかって、舞台からは乳白色の中にぼんやりと山々がのぞまれ別世界にいるようであった。そして雨でぬれた雄大な建物は霧の中にどっしうと立っている。三千院などの細詳なわびさびと違った。雄大な美がそこにある。

第55班

内田茂夫(F) 巢山広美(F) 新誠一(F) 杉田健一(F)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:01—13:48生駒山14:50—15:15興福寺—15:35大文字旅館

(感想)

雨が降ったため、生駒山へいっても景色があまりよくなかったのが残念だった。興福寺の国宝館はじっくりみる価値があるように思われる。

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:10—9:25大覺寺10:25—10:30清涼寺10:40—10:50二尊院11:05—11:10祇王寺12:00—12:05仏野念佛寺12:55—13:05落柿舎—13:35天龍寺—14:20渡月橋—15:15西芳寺16:09—17:25御殿荘

(感想)

たいへんすばらしい眺めだった。約7時間歩いたが、たほど苦にならない。余裕があれば清滝あたりまでいって化野念佛寺の方へ下ってくるのがよいと思う。二尊院あたりで昼食がとれれば良いのではないか。

甘酒がとてもおいしかった。

苔寺まで行かないで、渡月橋の所で遊ぶのがよいかもしれない。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—9:35三千院11:00—11:45京都駅

(感想)

雨のため多く廻れなかった。

三千院はなかなかきれいだった。

第56班

諸橋喜久子(F) 荒木敏子(F) 小林良江(F) 広瀬美登利(F) 荒井洋子(E)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:15—14:15大和文華館14:45—15:00秋篠寺15:20—15:30法華寺16:00—16:15海竜王寺—16:45近鉄奈良ビル歴史教室17:15—17:25大文字旅館

(感想)

グループのひとりの親戚が大阪に住んでいて、そのおばさんに奈良に来ていただいて、私たちの計画したところをいっしょに廻ってもらったので、スムーズに廻れた。

また、休日のため近鉄奈良線の特急が、あやめ池で止まってくれたので便利だった。

大和文華館は入ると正面に青竹があって、なかなかムードがあり中には中国のつぼが陳列してあった。

海龍王寺に着いたとき午後4時15分だったが、すでに寺は4時にしまっていて拝観することはできなかったが、とても感じのよいところだった。

近鉄奈良駅に着いたのが少し帰宿時間に早すぎたので、歴史教室を見学した。窓から見える興福寺や東大寺の古い建物と新しい建物が自然に調和していて美しかった。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:15—8:40三千院9:35—9:55寂光院10:20—10:40詩仙堂11:10—11:25曼殊院12:30—12:50知恩院13:20—13:30清水寺14:00—15:10円山公園八坂神社16:50—17:00御殿荘

#### (感想)

大原の三千院には一番のりのほうで、人もまばらでよかったです、寂光院は新平家物語の影響か参拝者が多くて、せっかくのさびのよさも大なしだった。

それに比べて詩仙堂は団体を入れないので比較的静かで、名園を心ゆくまで楽しんだ。また、ここで100円でお抹茶をいただいた。

ここに曼殊院は30分おきに門をあけ、25人以上は決して入れないわくつきの寺だけに、その古めかしいたたずまい、枯山水をかたどった庭のすばらしさ、静かさは絶品である。私たちは11時30分の開門におまいりさせて下さいと言って入れてもらったが、12時から1時までは休憩だそうであるから、すべりこみセーフだった。

知恩院はうぐいすばかりのところだけ50円とられる、大きいだけあまり大したことなかった。

私たちはほとんどタクシーでまわったが、人数がいるので一人あたりにするとあまりお金もかからず、また有名なお寺の前には常時何台か車が止まっているから他の人たちにもお勧めしたい。

この日は行く先々で先生にお会いした。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—9:00高山寺10:00—10:30高雄神護寺12:10—12:40仁和寺13:40—14:10京都駅

#### (感想)

前日は晴れていたので、大原の方をまわってしまい、この日は雨だったので、少しゆっくりしようと、紅葉と北山杉で有名な高雄の方へ向かった。

あいにくの雨だったが、うっ蒼と茂る北山杉のおかげで雨がかからず、ひっそりとほとんど人もいない寺もなかなかムードがあつていいものである。とてもまわりの景色を見ながら歩くのが快かったので、神護寺まで歩いて、長い階段を登った。

仁和寺は、法隆寺や清水寺などへ行くよりも人が少なく、しかも全体が国宝であるので見るべきものが少なくない。広い境内を傘をさしながら歩くのもまたよいものである。ここには、多くの桜が植えられていて、四、五月ごろ美しい花をさかせるという。

わわりあいとうまくまわれたので、時間があまってしまって困った。

### 第57班

加藤志貴雄(F) 大場順一(F) 杉田伸樹(F) 藤岡秀樹(F) 丸山隆司(F) 名木田秀吾(F)  
友光厚直(F) 牧知宏(F)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—南大門—三月堂—二月堂—大仏殿—戒壇院—興福寺—大文字旅館

#### (感想)

春雨にたたられて宿へ帰ったとき、班の何人かが風邪をひいた。我が班は主に徒歩であったが、このコースを通る班は他に類を見ず、自負している。このコースをたどる際は、ハイキングスタイルとお金を充分に用意しておくことが必要である。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:00—三千院—勝林院—寂光院—詩仙堂—17:00御殿荘

#### (感想)

とにかく、よく晴れていた。市電で洛北高校前まで行き、天気がいいので近くの停留所まで歩く。そして、三千院まではバス。バスはとても混むので注意して行くこと。三千院のお坊さんがおもしろい。しかし、反対に寂光院は、印象が悪い。説明者がアルバイトの人ため、印象が悪かった。帰りは、大原の里を歩いて、そこに住む人の親切さをつくづくと感じた。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—竜安寺—知恩院—京都駅

#### (感想)

この日は雨で、主に電車を使って行動した。しかし、その雨にも負けず、我が班はその計画通り、石庭の竜安寺を訪ねた。ここは、我々の心を「禪」の道へ導いた。しかし、団体見学者が多く、気分が損われるため、時間に注意して行った方がよいと思った。

### 第59班

古川恵子(G) 水谷篤子(E) 西巻礼子(G)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00——友人の学校——茶店——桜井——天理——桜井——18:40大文字旅館  
(感想)

たいへん神経を使った一日であった。奈良に来てまでこのような事が起きるとは思ってもみなかった。友人3人が、不良に取り囲まれた時、友人を見捨てて電車に乗った私達。やはり、電車に乗ったとたん友人のことが気になりだして、自分等の卑怯さを感じ、天理へもどった。そして駅長室へ行き、助けを求めたが、あっさりと君達は桜井へもどれと言われた。その時の私達3人の電車に乗って帰ってこなければよかったと思う後悔の念。天理から桜井までの時間。こんなに電車の遅さを感じたことはなかった。無事でいてほしいと何度も思ったことだろう。桜井につき、ホームを捜したが、友人の姿は見当たらなかった。それが、ホームを出ようとしたとたん後ろから友人が歩いてきた。「よかった」何だかとてもうれしく、涙が出てきそうであった。この事で帰りがおそらく先生や友人にも心配をかけた。有元先生の言うように確かに我々3人はばかの集まりである。しかし、今思うと良い思い出であり、貴重な経験であった。

### 3月22日(木) (見学コース)

御殿荘8:00——9:00叔母の家13:00——13:20仁和寺——14:30妙心寺——15:30新京極——17:00御殿荘

(感想)

修学旅行個人行動の中で唯一のお寺見学の日であった。特に仁和寺は静かで、ゆっくりと心落ちつくまで見学できた。だが妙心寺は何がなんだかさっぱり。お寺の中を見学しようと門の前に立つと表札がかかっていて、だれかの家だったり、こんなことが数回、このことについては腹が立った。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00——9:30苔寺10:40——10:50天竜寺——12:10嵐山——1:00京都駅

(感想)

大きなおみやげを持っていたので、雨がたいへん苦痛だったが、その雨のおかげで苔寺が印象に残ったのかもしれない。中学のときに行ったところだったが、良かったからもう一度行ってみようということになったわけだが、やはり何回行っても感激！ここでひとつ感じたこと、拝観料が高すぎるということ。それなりの用途があるのだろうけど、なぜ、日本の古い文化財を見るのにお金を払わなければならないのかなんて思ったりして。

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00——13:50海竜王寺14:10——14:20法華寺14:50——15:30秋篠寺16:20——17:30大文字旅館  
(感想)

不退寺、興福院などにも寄る予定だったが、疲れていたのでやめた。それで、各寺をゆっくり見ることができた。海竜王寺は私たち以外には拝観者もなく、ひどくさびれて、もの哀しい感じがした。対照的に法華寺は華やかな感じ。十一面觀音よりも恋文で作られたという横笛の像が印象に残る。秋篠寺は駅から遠いので閉口したが、それだけに深閑としたたたずまいにはほっとするものがあった。本堂内の伎芸天は、今まで聞いたこともなかつたが、ゆったりとした姿勢で立つこの仏像に予備知識なくとも、みんな心を惹かれた。

### 3月22日(木) (見学コース)

御殿荘8:10——苔寺道——9:50苔寺10:10——10:10地蔵院10:30——嵐山——11:20天竜寺——12:10滝口寺——12:40茶店13:20——13:40大覚寺——14:15等持院——15:00竜安寺——15:15広隆寺——17:20御殿荘

(感想)

こんなハードスケジュールをよくもこなせたと思う。苔寺は人の少ない朝早くをねらったのが成功。この日は庭園巡りを中心とした計画だったが、その出発点としてゆっくりみた。水の音と鳥の声が印象的だった。

嵯峨野は滝口寺のみ寄った。ここはガイド（おばさん）が感じ悪いので興醒め。

等持院、竜安寺と庭の鑑賞が続いた。名庭を理解しようと思ってしばらく向かってみたが分からなかった。

広隆寺は時間的に遅かったので人もまばら。前々から見たいと思っていた弥勒菩薩をじっくりと鑑賞。期待を裏切られることはもちろんなかった。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00——10:20寂光院11:10——11:45三千院12:40——1:50京都駅

(感想)

前日の疲れが出たのか、行きのバスはみんなダウ。雨がかなり降っていたが、かえってそれが趣きを増して良かった。それが大原だと思った。

寂光院は小さいながらも細やかで女性的な感じ、尼寺であった所以であると思った。ここは、書院の廊下から眺める下方の庭園が印象に残る。

三千院は寂光院に比べるとずっと広く男性的な感じがした。とくに「三千院」と文字の入った番傘をさして庭をゆっくり歩くのはなかなか風情があった。

### 第63班

塩村洋子(G) 川田智子(D) 鈴木直子(G) 中富啓子(G) 細田恵(G) 松原良枝(G)  
木庭真美子(H) 染野峯世(H)

### 第65班

岡村美智子(H) 安藤雅子(H) 北島綾子(H) 余吾はるみ(A)

3月20日(月) (見学コース)  
大文字旅館——法隆寺——大文字旅館

(感想)

旅館から、国鉄奈良駅まで行くのに時間を要した。もう少しで逆方向に行って、乗り遅れるところだった。関西本線は平日で昼頃だったせいか、とてもすいていた。駅から法隆寺前まで、バスも出ているのだが、徒歩にした。どうも道筋を一本まちがったらしく、田んぼのあぜ道を通り、人通りの少ない裏道を通って、中宮寺、夢殿の方に出てしまった。この時、中宮寺に行ってしまえばよかった。法隆寺では、雨もひどく降り、塔や大宝藏殿でほぼれと見すぎ、中宮寺のところに来たら、4時10分前、はいろうと門前の“注”を読むと、4時15分前でメ切、一同ため息をもらして、がっかりした。バスを15分待って、郡山経由で、大回りのバスに乗った。これに乗ると、法起寺、慈光院、薬師寺、唐招提寺に行ける。法隆寺は2度目だが、やはり時間をかけて、じっくり見るのがいい。

3月22日(水) (見学コース)  
御殿荘——御所公園——二条陣屋——二条城庭園——釈迦堂前——祇王寺——落柿舎——天竜寺——御殿荘

(感想)

予定とはかなり違うものになった。御所には、入れないので、そのまわりを、ぐるっと歩いた。幅200m位の道がまっすぐずっと通っていて気持ちいい。二条陣屋はみんなで楽しみにしていたものである。「小川さん」の方が説明しながら歩いて下さった。茶人が作つたので各所に炉があり、きめ細かな細工がほどこしてあり、忍者などが出てくる時代劇などの飛階段や、武者だまりや、隠し階段のしきけもおもしろい。まわりが小学校や倉庫が建っているのが目障りでし方ない。だが、陣屋は興味深くおもしろかった。(しかし拝観料もバッチャリ250円だった)二条城内は前に入ったことがあるので、庭園の方にはいった。桜の時期ならもっと素敵だろう。二条駅から山陰本線で行こうとしたが、30分近く待つことになるので、大覚寺行きのバスを利用した。満員で立っぱなしだった。桂川が美しく見えた。噂で祇王寺が評判だったので行った。寺は小さく、どうということはないが、竹林が素晴らしい。こんなのは見たことがない。落柿舎は、その存在さえも知らなかった。道を聞かれた時、知らなかつたら、その聞いた人が、「いっしょに行きましょう」と言って行くことになった。ここを秋の柿のなるころに訪ずれると、もっと趣きが深いと思う。野宮は、竹林が道の両手にあり、人が見当らずいい気分だった。天竜寺は寺といつても、ちょっと豪放的で襖に描かれていた竜の無気味さは何とも言えない。閉門真近だったので人も少なくのんびり歩いた。

「嵯峨野」は縁が多く質素だが、友だち同志いろんな話をしながら、和やかに回ってきたと思う。

地図にのっていないような裏道を通ったり予定外のところを回ったりしたので、時間をとったが、わからないながらも地元の人へ聞いたり、立て札をまじまじ見たりして、行きあたりばったりの楽しい1日ではあった。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘——三千院——寂光院——京都駅

(感想)

今日も雨だ。行きはバスの中で座れ、眠ってしまった。人が何しろ多い。遠くの山々に白い靄がかかり、幻想的なムードが漂っていた。時間がかなり残った。この分だと、音無の滝まで行けたと思う。帰りのバスは、これまた満員で、足腰もさることながら、腕も鍛えられた。

### 第66班

高尾英昭(H) 高島広道(H) 高嶺雅行(H) 塚本泉(H) 南雲和則(H) 望月隆(H)

3月20日(月) (見学コース)

奈良駅13:42——桜井駅14:21——長谷寺14:49~16:32——桜井駅16:40——奈良駅17:44

(感想)

まったく雨というものはいやな物である。いっぺんに楽しさを洗い流してくれる。一日目の今日は、長谷寺へ行った訳だが、学校で見たスライドでは、仲々良い所だと感じたのに反し、またも、雨のせいか、すっかり色彩が失なわれた感じで、生気がまったく感じられなかった。しかし、この感じも、寺らしくて良いのかもしれない。

以上は、色彩感から感じた物で、山の中にあるこの寺の莊厳を感じた事も、確かである。

結論的に見て、やはり、グループ全員、おもしろくなかった様である。やはり旅行では雨がふらないのが一番である。

3月22日(水) (見学コース)

出町柳8:32——鞍馬寺9:30——大原着12:30——大原発15:48——能野神社16:28

(感想)

この日は、嘘の様に晴れた一日であった。この日のスケジュールは、ハイキングの様なものであったから、尚都合が良かった。

出町柳から、鞍馬寺まで電車で行った。この電車は、もう都会になくなつた都電を思い出させた。

鞍馬寺は、昼なを暗きと言った風で、仲々風格のある寺であった。歩いて登った方が良かったのであろうが、我々は、小さなケーブルカーで登った。寺には、あまり人はいなかつたので、山寺の雰囲気を十分に味わえた。それに、晴れていたので、まわりの山々が、とても見事に顔を並べていた。この時点では、まさか三千院のある大原の騒騒しさを、考えつく訳がなかった。

ケーブルカーで再び山門に降り、少し、道を歩いて、細い道を、山へと登り始めた。山は小さかったので、一気に登る事が出来た。一つ目の山をこえると、あとは平坦な山ばかり

りで、すいすいと歩けた。さすがファミリーコースである。(旅行ガイドに書いてあった)途中の静原は、これまた静かな所で字の通りであった。道にはほとんど人はいないし、時々店などに人を見る程度であった。

最後の山を登って、大原が見えると、さすがにもう感じが今までとはがらっと変わっていた。バスが往来し、砂ぼこりが立ち、まったくイメージダウンであった。

最初、三千院に行ったが、ここはものすごい人の波でまいった。しかし、この坊さんテレビのコマーシャルに少し顔を出しているせいか、仲々堂に入っていた。この裏にある音無の滝というのを、どんな立派なものかと思ったら、ごみのちらばっている、おもしろくないものであった。最低だったのは寂光院であった。平家物語で有名なのか、まったく、人が多すぎる。この説明も、まったく事務的であほらしくなった。寂光院からの帰り道の途中で、茶碗に絵を書いて、それを焼いてもらつたが、自分の書いた物に、最後まで、みんな興奮ぎみであった。今日こそは、すいている内にと、早めに宿に帰つた。風呂はすいていた。

### 3月23日(木) (見学コース)

百万遍——白梅町——妙心寺——仁和寺——竜安寺——四条大宮——新京極——京都駅  
(感想)

今日は、第一日目と同じ雨であった。しかし、今日だけは雨の為に人の出も少なく良かった面も多分にあった。

市電で揺られて、20分ぐらい。ついてから少し歩いてついたのが妙心寺。ここは、庭を見に来たのだが、庭は、最後にちょっと見ただけであった。行くと、だれもいなくて、静かだった。少し待たされたが、その間、広い本堂に座って目をつぶると、静かな雨の降る音がしとしと聞こえた。それがまた、たまらなく感じた。しかしそれも、一団の団体がやって来た事により、破壊されてしまった。しかし、次に見たものが、何とも言えず、素晴らしかった。それは、大きな天井に書かれた龍の絵であった。何年も構想を練り、ようやく書かれたというこの絵。一回りしてびっくり。どこへ行っても自分を睨んでいる様で気味が悪かったが、衝立ての後ろを通つて再び絵を見上げると、なんと龍は天からまっさかさまに、舞い降りて來るのである。この絵には、まことに感動した。

その後であったから仁和寺は、おもしろくなく感じたのは当然と言えば当然であった。竜安寺に行く道を見間違えたばかりに、仁和寺から5分のところを35分かかってしまった。竜安寺ではさすがに石庭がきれいであった。

また、市電で市内にもどり、少し歩き、新京極へ行った。

今日、気が付いたのは、商店が沢山ある所と、全然ない所が、あまりにも極端であった事であった。なぜかと言うと、結構店があるな、と思うと道をまちがつただけで、もうひつそりとしている。なんとも古都の現代の姿なのかなあ。と感じたものであった。

この京都も商根たくましくなり、古都のおもかげが、なくなつた様に感じる。あまり、文化が向上するのも考え方である。

グループ行動という形をとつたとは言え、内容は、クラス行動とたいして変わらなかつたのが、なんとも残念であった。もう、京都は、修学旅行で行く所ではなくつた所になつてしまつた様な気がする。

### 第67班

上島郁子(H) 加藤知子(A) 山下恵子(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13：10——13：50秋篠寺14：45——15：15唐招提寺15：50——奈良公園——17：30大文字旅館  
(感想)

旅行1日目から雨でがっかりだったが、人出も少なく、ゆっくりまわられた。

秋篠寺では、今は日本で唯一という伎芸天がよかったです。今までどんなお寺に行つて、どんな仏像を見ても、ずっと見て通るだけだった私が、じっと眺めていたのが、我ながら不思議だった。みんなと団体行動で来ていたならこんなふうには、見られなかつたろうと思った。最初に道を尋ねた女人や、秋篠寺で詳しく説明してくれたおじさんの言葉のやさしさや親切さに、3人とも、奈良に来ているんだなあと感じた。

唐招提寺では、一言で言うと、大きいなあという感じばかり残っている。休んでいた時間が長すぎて、はじまでまわれないで帰つてしまつた。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8：30——10：10高山寺11：20——11：30西明寺——12：50神護寺——仁和寺——新京極～祇園——御殿荘  
(感想)

何年かぶりに乗つた車掌さんのいるバスでついた高山寺は、とても静かだった。秋は警官が出て整理するほどの人ごみになるという茶店のおばさんの話が信じられないほどだった。石水院からの眺め、清瀧川の渓谷は素晴らしいが、周山街道から響いてくる車の音が気になつてしようがなかった。金堂まで登ると車の音もなく、他の人もいなくなつて、ただ澄んだ空気と、杉の香と石段の両端を流れる澄んだ水だけ。今ごろはどんな観光地に行っても見られるゴミも全然なかつた。こんな所でこそ心を清められるのだろう。そして私達も清められたという気はしているが……。

西明寺は小さなお寺だったが、門とその両脇に並んだ石どうろと、門の前に咲くアセビの花が美しかった。神護寺は長い石段を登つて行くが、コンクリートの階段と違い、全部違う形の石段が楽しくて、それほど疲れを感じなかつた。広い境内は人影もまばらだつたが、朱色の金堂にはあまりひかれなかつた。金堂より奥の方にある展望台からの眺め、錦雲峠は素晴らしいかった。ここで厄除けのかわらけ投げを楽しんだ。

仁和寺は今までまわつた寺とは違う華やかさがあつた。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘——10：30寂光院11：00——12：20三千院——14：40京都駅

(感想)

また雨でがっかり。三条からまちがえたバスが、四条大宮まで行つてしまつた。おかげ

で時間の浪費。雨だというのに人が多かった。寂光院は、小さいけれどまとまっているような気がした。高山寺や他の寺の静けさばかり見てきた私達は、本堂にぎっしり座っている人達の間に入つて、説明を聞く氣にもなれずにひとまわりして、そこそこに出てしまつた。三千院は広いだけに、人をそれほど感じなかつた。庭に出て極楽院に行くとき、貸してくれる番傘に、京都らしさを感じた。番傘をさして、随分長い間いたような気がする。

日の雨には情緒があって、屋根のかわらが雨に光っていた。京都、奈良の寺が皆、観光地になり、僧侶が仏典を読まないで「経営学入門」等を読み、拝観料100円とかいって、暴利を貪る中で、この清水寺は、なかなか良心的で、拝観料も20円と安い。しかし、寺の中は、どこかの寺と違つて、なかなか内容が濃く、十分楽しんだ。それに対して苔寺は拝観料100円でも庭の手入れ等を見ると、別段高額だとは思えないが、頭にきたのは、その門前にある茶店である。名物というから「とろろそば」を食つたが、レシートを見て驚いた。東本願寺は、何もかも馬鹿デカかった。

## 第69班

福島正治(H) 荒井則一(B) 小笠原剛司(G)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00—14:45橘寺15:00—15:15石舞台15:30—17:30大文寺旅館

(感想)

かなり激しい雨だったのであまりゆっくりと見学できなかつた。この方面は交通の便が悪いため、行動時間が限定されてしまう。一本、バスを逃してしまうと宿舎に帰れなくなってしまうので、時計とにらめっこだった。橘寺は、小さな素朴な寺で、ここでかの一万円札の聖徳太子が生まれたとは思えない。石舞台は、ただ雨宿りをしたというだけで、大したものとも思われなかつたが、古代の人がどうしてこのような巨石を組み立てることができたのかは、興味あるところだ。岡寺もまわる予定だったが、時間がなかつたので割愛した。タクシーで廻るのが、最も効果的だと思う。

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘—六甲山—御殿荘

(感想)

うなぎの寝床の様な神戸の町を眼下に、そしてその向うの青い海の中に浮ぶ淡路、そして、大きく対する四国。このような展望を期待して六甲に登つたが、山頂に着いた頃には、大部雲ってきて、わずかに神戸湾と、四国山地と思われる山影が見えたにとどまつたのは残念だった。しかし、六甲の楽しさは、ありあまる大展望だけではない。ロックガーデンは名のごとく、岩のゴツゴツ露出した所で、一瞬自分が高級山岳の上にいるような気になり、危険ではないが、なかなかおもしろい所だ。しかし、ロックガーデンのある東六甲に対して、西六甲は、完全に“山”でない。山上にはゴルフ場、ホテルがあり、自動車がものすごいスピードで走つてゐる。残念なことだ。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—8:45清水寺10:20—11:55苔寺12:55—14:00東本願寺14:30—15:30京都駅

(感想)

最終日は楽に行こうということで、とりあえず清水寺に行った。初日の雨と異なり、本

## 第72班

西泰子(H) 市橋良子(A) 佐々木栄子(H)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館—淨瑠璃寺—岩船寺—大文字旅館

(感想)

この日はあい憎のコンディション、雨がしょぼしょぼだったので。予定にあった岩船寺の周辺は、非常にぬかるんで歩けそうにないという話だったのですが、かまわないということで、行くことにしました。岩船寺そのものよりも、そこに行くまでの、テクテク歩きの山道、その周囲の雰囲気がとてもよかったです。特に雨が降っていたことも加わって人影もほとんどなく、ひんやりとしてのどかな感じがしました。

途中、道ばたに野の石に無難作にほられた野仏が、ところどころ見えました。この日、この野仏がいちばん印象的でした。

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:30—平安神宮—知恩院—円山公園—八坂神社—靈山観音—御所—下鴨神社—新京極17:10—17:30御殿荘

(感想)

以前、といつても小学校の頃、宇治市に住んでいたので、この日は、そのころの友達と久しぶりに会い、京都の町を案内してもらいました。はじめに平安神宮の庭園、紅しだれ桜が有名ということでしたが、時期の関係からか、蕾もまだ固い殻に包まれていました。でもやっぱり日本庭園の持つ木の緑、水の緑、そして、たこものの落ち着いた雰囲気がよかったです。

下鴨神社は、子供たちの遊び場となり、広い境内では野球をしたり、自転車を乗りました。そして、社の奉つてある小さな池では小さな子が、「カエルの子や」と言って、あの透明なドロッとした黒いボチボチのある帶状のものを手にとつて見せてくれました。参拝人もいなくて、村の鎮守様っていう感じで、とてもとても葵祭っていう雰囲気じゃなかったのです。—だけども、こういう下鴨神社だからこそ、印象的なのです。知恩院、八坂神社と歩き回り、疲れて、気分が減入つていてのがすごく楽しくなりましたヨ。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘——高山寺——神護寺——鳥居本——化野念佛寺——祇王寺——滝口寺——二尊院  
——釈迦堂——京都駅

#### (感想)

この日もあい憎雨がパラついていましたが、小雨の中を「今日が最後」とばかりに歩くのも、又、格別でした。特に神護寺に行った時には、バスに、1分差で間に会ったという調子で、日頃、生ってきた足の筋肉をいやという程使わされ、さすがに参ってしまいました。念佛寺のそばの休憩所で、甘酒を飲み、ホット一息。ここからは行く先々で多くの新宿生と会い、何となく団体行動のような気分になりました。釈迦堂から京都駅までもまたまたあせったわけですが、この頃になると、ようやく運が向いて来たのか、バスがほぼ時間通りに着いてくれ、何とかセーフ。

まあ、とにかく、せわしく楽しい一日でした。

### 第74班

河村厚夫(H) 嶺允晴(A) 中山寛之(C)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:10——13:45法華寺14:10——平城宮跡——14:40西大寺14:45——15:00秋篠寺15:20——15:45西大寺15:54——16:00大文字旅館

#### (感想)

強い風雨のため滝坂道を歩く予定を変更し、法華寺・秋篠寺へ行く。数ある平城の寺々の中で案外知られているわりには、静かで、雨にぬれた境内は落ち着いた雰囲気である。

法華寺。光明皇后御願になる、総国分尼寺であり、国宝の木造十一面観音立像がある。また、ここではとてもかわいい守り犬が、尼さんの手によって作られている。一つとして同じものもなく、長い時間と多くの手間をかけている。

秋篠寺。帝釈天と伎芸天が薬師如来の両脇に大きく構えているが、その表情は対称的である。伎芸天の天平時代のまだかけりのない愛らしい豊かな顔。それに比べ帝釈天は、きりりとひきしまった顔をしている。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘——9:30三ノ宮——沓掛町10:05——東長町10:50——恒武天皇皇后陵——東向日町12:50——13:40天王山——14:25小倉山——15:05観音寺——御殿荘

#### (感想)

天氣にも恵まれ実に静かなそして楽しい旅ができました。三ノ宮は樺原にあり、旧街道町としてかすかなおもかけが残るにすぎないが、落ち着いたたたずまいである。

旧山陰道を沓掛町まで歩く。この辺りから待望の竹林が広がる。国道を横切り西長町を経て、北春日野へ至る道にはいる。一帯は柿畠が果てしなく続いているが、まだ余り木は

伸びていない。東長町へ行く道は細く、美しく整った竹林の中を行く道である。客土を何回も繰り返して、大変な厚さになっている。それも柔かい筈を作るためである。東向日町へは数キロの竹林を通って行く。嵯峨の竹がもてはやされるが、西山の竹は比較にもできない程の美しさである。すべて、食用の筈を取るためである。しかし、この美しさも、京都市の洛西、新住宅建設用地として、あと幾許の余命もないかもしれない。天王山は、京都・大阪・淀川の眺望が開けて素晴らしい。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘——9:05勧修寺9:25——9:35隨心寺10:10——10:20三宝院11:00——11:14六地蔵11:30——11:44伏見稻荷12:39——四条12:45——京都駅

#### (感想)

天気に禍いされて、後半一番楽しみにしていた石峰寺へ行けなかつたのが残念でならない。それで今日は醍醐の付近を歩いて来た。

觀修寺は庭園が美しく、「觀修寺冰池園」と呼ばれているが、名神高速の真下にあるために、車の音がうるさすぎる。

隨心院も建物と庭園が美しく、桃の花が散りかけていた。落ち着いた静けさが得られないのが残念である。

醍醐三宝院の広大な敷地には、いささかびっくりした。五重の塔をはじめ、いくつかの仏閣が点在している。

伏見稻荷は鳥居が続く。自然景観が良い。

### 第76班

岡本裕二(F) 内田尚夫(A) 東英明(C) 吉原秀明(C) 落合一夫(F) 土橋敏行(F)  
鎌田正直(G) 杉浦晃(H) 高嶺雅行(H) 藤森伸幸(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00——14:30法隆寺16:30——17:35大文字旅館

#### (感想)

あい憎の雨であったが雨の法隆寺もなかなか良かった。途中、財布を落とした者がいて捜したため、門限に遅れた。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:00——9:00嵐山——法輪寺——天竜寺——大河内山荘——野宮——二尊院——念佛寺——16:00大覚寺——17:00御殿荘

#### (感想)

嵯峨野では、人や車が多くて想像していたよりも俗化していた。ただ、大河内山荘は、入園料が300円と高いが庭園がきれいで、高台にあるため嵯峨野が見渡せる上、きれいな

女人がお茶やお菓子を持って来て、今日行った中で一番評判が良かった。

念仏寺の竹林も良かった。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘 8:00 — 9:00 銀閣寺 10:30 — 11:00 清水寺 12:00 — 12:30 京都タワービル  
15:00 — 15:10 京都駅

#### (感想)

銀閣寺はとても良かったが、団体客がいなければもっと良かっただろうと思う。また、銀閣寺の下に並べられた青いポリバケツが雰囲気をぶちこわしていた。

#### 第77班

鈴木大輔(E) 稲員尚志(A) 波木井忠彦(D) 相原信夫(F) 堀史生(F) 吉田昭(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

奈良大文字旅館 — 14:10 法華寺 14:35 — 14:50 海竜王寺 — 小辺古墳 — 磐之媛命平城坂上陵 — 16:00 平城陵 — 16:10 平城宮跡 — 17:15 大文字旅館

#### (感想)

見学予定では奈良公園となっていたが、我々はそんな所へ行く気はなかった。近鉄奈良駅の地図で一応法華寺にコースを決めた。法華寺に行くと本校生徒や他の参拝客がいっぱい。うんざりして法華寺を出て、人のいない静かな寺を求めて海竜王寺へ行ったが、拝観謝絶中。小辺古墳の方へ近づくと、だんだん人は少なくなり、縁がいっぱいに広がる。ただ目ざわりなのは、自衛隊基地だけ。そして、小辺古墳・磐之媛命平坂上陵・水上池・平城陵・平城宮跡を歩いて見て、我々は全員で感じたのだ。佐紀野路を回って良かった。水上池では赤い花をたくさんつけた木。水の中には枯れたハスが首をかしげ、コイがピチャピチャとはねている。そして聞こえるのは風の音。こんな素晴らしい所がまだあったのだ。日本人の郷愁を引き起こす平城宮跡。こんな天気の悪い日には、訪れる人も少なく、我々の他には、5・6人がかつて栄えた都の跡を強い風に顔をしかめながら眺めていた。佐紀野路には我々が求めていた物があった。自然と日本人の心のふるさとが日本を見つけた。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘 — 祇園 — 11:00 建仁寺 11:30 — 13:30 清閑寺 — 14:00 清閑寺 14:30 — 16:50 御殿荘  
(感想)

京都の人は皆親切です。道を聞いてもわざわざ一緒に来てくれる人もいるし、少なくとも今までにこんな爽やかな気持ちを味わった事はありませんでした。京都の人、本当にありがとうございます。京都の街はきれいでした。我々は四条通りに行く途中、河原町の盛り場を歩きました。新宿はすごく汚ないのに、ここでは、町の人が皆道を掃いていました。

我々はまたまた予定を無視した。清水寺に比べ清閑寺の静けさはどうであろうか。森の中の小道を歩くと小さな寺が一つ、忘れられたように建っている。参拝客などは1人もいなかった。

天王町の「貴」のお茶はおいしかった。京都、いや日本にこんなユニークな店があるなんて。

### 3月23日(木) (見学コース)

御殿荘 — 12:00 西芳寺 — 桂川 14:00 — 15:00 京都駅

#### (感想)

とにかくよく降る雨です。やんだのは昨日だけ。昨日歩き過ぎたので皆疲れ気味。だから嵐山まで車で行っちゃいました。とにかく有名な寺に行くと新宿の生徒が必ずいるのです。西芳寺はいつみてもきれいです。しかしそれよりもきれいだったのは、雨に煙る嵐山でした。半開きの桜があり、特に、渡月橋から見た時などは傘もささずに景色に見入ってしまいました。

ついに3日間、我々は予定を無視し、(西芳寺は予定どおり) 静かな古都の一面を捜しましたが、今日はその終わりにふさわしく、細い道を進んで静かな自分達だけの場所を見つけた時の喜びは、いつまでも忘れないでしょう。

#### 第80班

高野直樹(H) 高原昭典(H) 和賀道晶(H)

### 3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館 — 15:00 石舞台 — 甘檜丘 — 大文字旅館

#### (感想)

この日は強風と雨のため惨憺たる日だった。とくに、甘檜丘から檜原神宮前まで歩いたので、びっしょりぬれた。甘檜丘からは飛鳥の里がよく見渡せた。大和三山がぽかっと見え、また、ため池がたくさんあった。

石舞台は蘇我馬子の墓と伝えられる古墳で、大きな石が積み上げられて石室を造っている。

### 3月22日(水) (見学コース)

御殿荘 8:00 — 9:30 鞍馬寺 — 12:00 静原 — 13:00 寂光院 — 三千院 — 17:00 御殿荘

#### (感想)

鞍馬行きは1時間に2本しか出でないので少々待ったが、30分位で鞍馬に着いた。鞍馬山は木立が繁ってうつ蒼としていた。途中サルが二匹出て来て写真にポーズをとった。

静原・大原への道は山道で、細く歩きにくかった。

寂光院はさびれた所だが、団体客でいっぱい混雑していた。三千院は広く、庭も良かつた。下村觀山筆の虹の図が、襖から鴨居までかれている。

3月23日(木) (見学コース)

御殿荘8:00—8:15祇園—清水寺—円山公園—14:45知恩院—15:30京都駅

(感想)

三年坂あたりの竹細工、茶碗、陶器、瓢箪、古道具などのひっそりとした店を歩くのも楽しい。この日は時間が余ったのでいたる所で休んだ。

#### 〈編集後記〉

今さら修学旅行の記録なんて、とお思いのかたも多いことでしょう。たしかに遅すぎた感があります。また、内容的に言っても、単調になってしまったようです。はじめは個人的な感想や思い出も載せたかったのですが、アピールが足りなかったせいか、思うように原稿が集まりませんでした。

これは、時期的に遅かったことや、生徒の関心が低かったことなどが原因していますが、われわれ旅行委員会にも、安易に仕上げようという気分があったのではないかと、反省しています。

いろいろと、ご批判、ご不満もありましょうが、この記録によって、修学旅行が楽しく思い出されれば幸いです。

終わりに、カットの森山朝子さんと、旅行に際して多分にお世話になった先生がたに、紙面を借りてお礼を申し上げます。

#### “行動の記録”編集委員

3A 余 吾 はるみ  
3B 旦 尾 衛  
平 塚 公 平  
3C 今 井 肇  
3D 小 林 隆 治  
3E 新 津 あや子  
3F 西 川 良 三  
岩 本 真佐子  
3H 望 月 隆  
上 島 郁 子  
表紙 森 山 朝 子

1972・3修学旅行 行動の記録

発行日 昭和47年9月1日

編集・発行者 東京都立新宿高等学校  
(昭和46年度2年生) 旅行委員会

発行責任者 小林 隆治